

GLEC 年報 2022

茨城大学 地球・地域環境共創機構

Global and

Local

Environment

Co-creation Institute



巻頭言

茨城大学地球・地域環境共創機構（Global and Local Environment Co-creation Institute: GLEC）」は、4部門（気候変動対応部門、流域圏環境部門、農業・生態系環境適応部門、人間・社会経済部門）を研究・教育の柱とする新たな組織として2020年4月に設立されました。専任教員と兼務教員からなる全学的協力体制の下に「環境科学の世界的研究拠点を構築する」ことを目標としています。設立後の2年間（2020～2021年度）はCOVID-19に直面し様々な活動の制約を受けながら走りだし、ようやく3年目の2022年度からCOVID-19以前の日常を取り戻しながら研究・教育を進められるようになってきた感があります。この度、その成果を学内外へ広く発信し、今後の発展と目標達成への指標としてGLEC年報2022を発行する運びとなりました。

茨城大学ではGLECの前身である2組織(広域水圏環境科学教育研究センター及び地球変動適応科学研究機関)において、世界的にSDGsの重要性と直面する環境への問題意識が高まる以前からSDGsに対して先駆的に取り組んできた歴史があります。この強みを活かして、GLECが環境科学や環境問題の解決に関わる文理融合および分野横断、すなわち共創による研究成果を生み出すプラットフォーム機能を果たし、「環境科学の世界的研究拠点を構築する」ことが「イバダイ・ビジョン2030」の一つを達成することになります。

なお、本年報はGLECの年次活動と関係する成果を集約したものであり、専任教員と兼務教員とが年度内に発表した成果のうちGLECでの活動に関係があると判断されたものを網羅的に掲載しています。成果の中にはGLECと教員所属学野にまたがるものも多く、ゆえに、掲載されたデータのすべてがGLECのみに帰属するものではないこと申し添えます。

今後とも、皆様のご指導とご協力を賜りますようお願いいたします。

2023年（令和5年）9月

茨城大学地球・地域環境共創機構長

戸嶋 浩明

目次

(1) 研究成果報告書	p1
気候変動対応部門	
流域圏環境部門	
農業・生態系環境適応部門	
人間・社会経済部門	
(2) 共同研究成果	p13
(3) 研究論文成果	p15
3. 1 専任教員・研究員	
著書	
学術誌論文	
国際会議論文	
学所内報告	
その他（国内学会発表、口頭発表、論説等）	
3. 2 兼務教員	
著書	
学術誌論文	
国際会議論文	
学所内報告	
その他（国内学会発表、口頭発表、論説等）	
(4) 2022年度の研究会、公開講座、講演会、WS等の実施	p34
(5) 新聞掲載、メディア報道等	p36
(6) 受賞、開発実績等	p37
(7) 国際交流	p38
7. 1 外国人受入	
7. 2 国内在住者受入	
(8) 教育活動	p39
8. 1 講義（学部・大学院 学内講義のみ）	
専任教員・研究員	
兼務教員	
8. 2 講義（フィールドステーション・サステナ関連講義のみ）	
専任教員・研究員	
兼務教員	
8. 3 学位取得者	
8. 3. 1 博士	
8. 3. 2 修士	
8. 3. 3 学士	

(9) 社会貢献（生活学習、外部委員（学会や役所）など）・社会連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・p55

9. 1 社会貢献

9. 2 社会連携

(10) 組織・運営・人事・予算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p62

10. 1 機構の構成（2022.11.15 現在）

10. 2 教職員名簿

10. 3 外部資金

関連資料（付録）

(1) 研究成果報告書

気候変動対応部門

1. 沿岸域における気候変動影響と適応策

横木 裕宗, 田村 誠, 今村 航平



1-1. 海面上昇による浸水被害額

日本沿岸域を対象として、海面上昇と潮汐による潜在的浸水面積、影響人口、浸水被害額といった浸水影響の定量化を試みた。児玉他(2022)は、日本版 SSP の 3 次メッシュ人口シナリオ、土地利用シナリオに基づいて約 1km 解像度の影響人口等を全国一律で求め、治水経済調査マニュアル（案）による被害額評価を行った。さらに、RCP8.5-SSP5 および RCP2.6-SSP1 のシナリオ比較による不確実性評価を実施した。

主要な解析結果は、次の通りである。全国の潜在的浸水面積は、2050 年に約 2,111-2,127km²、2100 年に約 2,261-2,598km² になると推計された。浸水面積は現在から 2100 年まで愛知県、佐賀県が大きい、これらは潮汐による浸水影響が大きい。海面上昇による浸水面積の増加割合が大きいのは、2050 年では大阪府、2100 年では東京都であった。影響人口は 2050 年には約 445-470 万人、2100 年には約 376-492 万人となり、浸水被害額は 2050 年に約 143-170 兆円、2100 年に 229-430 兆円と推計された(図 1-1)。RCP2.6-SSP1 は潜在的浸水面積、影響人口、被害額のいずれも RCP8.5-SSP5 よりも小さくなり、緩和策の重要性が示唆された。都道府県別では建物用地や影響人口が集積する三大湾の被害額がより顕著となった。茨城県の海面上昇に対する浸水面積比や被害額などの浸水影響は、全国的に見れば低い水準であった。

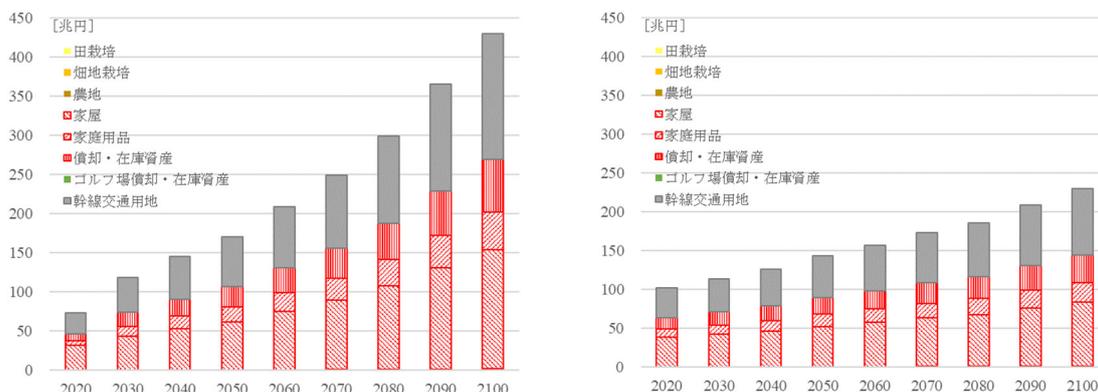


図 1-1 治水経済調査マニュアルによる浸水被害額
(左：RCP8.5-SSP5、右：RCP2.6-SSP1; 児玉他, 2022)

1-2. 海面上昇に対する移転費用

今村他(2022)は、海面上昇による浸水域から住居を内陸へ移転する場合の費用を、国土交通省の防災集団移転促進事業に基づき推計した。RCP2.6-SSP1 と RCP8.5-SSP5 について、2020 年から 2100 年まで 10 年毎に推計した。各時点の移転費用は、各都道府県の移転戸数に一戸当たりの移転費用を乗じて求めた。移転戸数は、浸水影響人口を世帯数に変換した値である。つまり、各時点の移転費用とはその時点で浸水

している全世帯の移転に必要な費用を指す。一戸当たりの移転費用は、防災集団移転促進事業で規定された費目である「用地取得・造成費」「公共施設整備費」「農地・宅地買取費」「土地購入・住宅購入・住宅建設に対する補助」「住居の移転に対する補助」それぞれを推計および合算して求めた。各費目の推計では、国の各種統計資料、宮城県石巻市および宮城県気仙沼市において実施された防災集団移転の事業内容を適宜参照した。

図 1-2 図は、全ての移転を同一県内で行った場合の都道府県別の移転費用総額を表す。東京都、愛知県、大阪府が特に高い値を示した。これらの都府県は、移転戸数が多く、住宅地の買取費用が高いため、移転費用総額も高く推計された。他に千葉県、神奈川県、三重県、兵庫県、岡山県、広島県、福岡県なども移転費用が比較的高かった。既往研究や防護費用と比較すると、移転費用の方が高い値を示した。

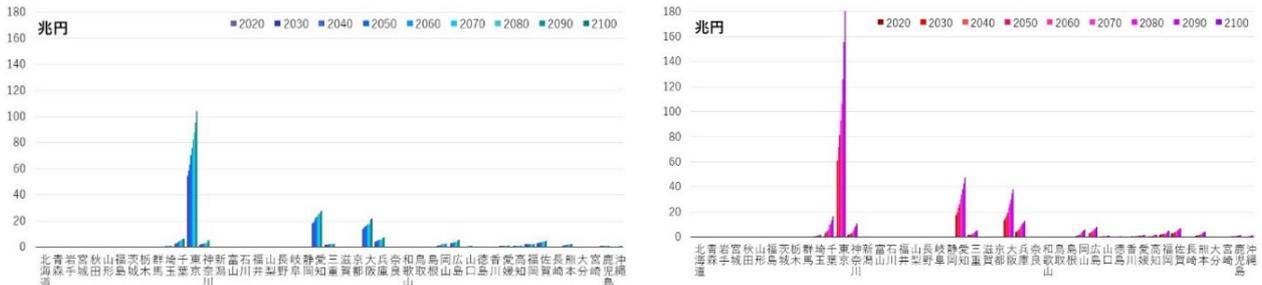


図 1-2 都道府県別の移転費用総額(左：RCP2.6-SSP1, 右：RCP8.5-SSP5, 今村他, 2022)

流域圏環境部門

2. サステイナブルな水環境の管理と保全技術

藤田 昌史



藤田研究室では、茨城県涸沼（汽水湖）に生息する二枚貝（ヤマトシジミ）を対象に、環境ストレスの評価を行っている。水環境から生態系サービスを持続的に享受するためには、水生生物の視点から水環境を評価することが重要となるためである。2022 年度は、マグネットとホール素子センサーを装着したヤマトシジミを下水（5 倍希釈）、シルト・粘土含有率の異なる底質に曝露し、開閉運動を調べた（図 1-3）。その結果、ヤマトシジミは環境ストレスを受けるほど開殻頻度、開殻率が高くなり、開殻時間が短くなることがわかった（三浦ら, 2022）。また、将来の気候変動を想定して、ヤマトシジミに及ぼす影響を生化学・生理学マーカーの観点から調べ、統合指標で評価する手法を提案した（Pokhrel et al., 2022a）。さらに、生化学マーカーと成長力との関係を調べたところ、生化学マーカーの応答を個体レベルの応答で解釈できる可能性が示された（Pokhrel et al., 2022b）。

海面上昇に対して脆弱な太平洋環礁国では、底生有孔虫やサンゴ等の沿岸生態系が国土維持に重要な役割を果たすことが知られている。一方、排水や廃棄物等の人為的汚染により沿岸生態系が破壊されつつある。マーシャル諸島共和国マジロ環礁では、排ガス由来の化学物質の影響も懸念されることを本研究室の先行研究で明らかになったことから、2022 年度は多環芳香族炭化水素のひとつであるピレンに着目し、底生有孔虫 *Calcarina gaudichaudii* の光合成活性に及ぼす影響を明らかにした（Akther et al., 2022）。

地球環境時代の水環境保全技術としては、創エネ／省エネ型の排水処理技術が重要となる。2022 年度は、創エネ型排水処理技術として微生物燃料電池に着目し、その数理モデル開発を行った。既報では考慮されていない非発電微生物をモデルに組み込んだところ、発電効率等の再現性が向上した（Deng et al., 2022）。下水処理場においては、水質センサー技術により窒素やリン濃度をモニタリングすることは可能になったが、生物学的窒素・リン除去において重要となる生物分解性（遅分解／易分解性）有機物濃度を迅速に定量する手法はない。そこで、迅速バイオ応答試験の結果を機械学習に入力することにより 30 分以内で遅分解／易分解性有機物濃度を自動定量する手法を開発した（Zhao et al., 2022）。流入水質が随時把握できるようになったため、今後は、理論的なモデルと機械学習を融合したリアルタイム運転管理モデルの開発を行う。

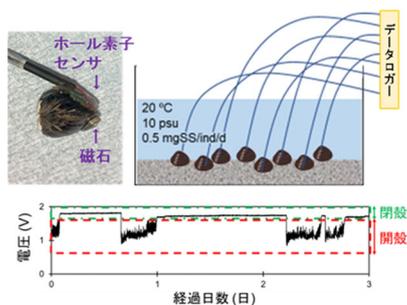


図 1-3 ヤマトシジミの開閉運動の評価

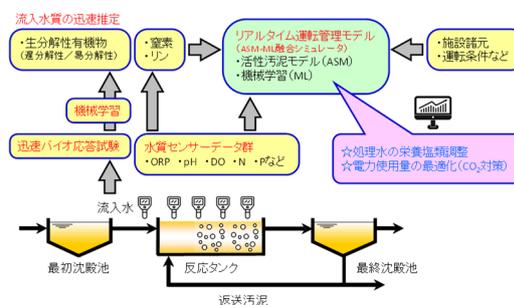


図 1-4 リアルタイム下水処理運転管理モデルの開発

3. 魚類の生態・生活史と自然環境の保全・再生

加納 光樹



加納研究室では、湖沼やその周辺水域における魚類の生息環境の適切な保全方策の検討に資するため、霞ヶ浦とその周辺水域、涸沼、新浜湖などで魚類の生息状況や生態・生活史に関する野外調査を実施した。霞ヶ浦のうち北浦に流入する 23 本の河川に多地点を設定し、春季と秋季の魚類の出現パターンを調べた結果、流路延長が長い河川の方が短い河川よりも種多様性が高いものの、それぞれを特徴づける水産有用種や絶滅危惧種が存在し、生物多様性保全の観点からは両者をセットで保全する必要があることが示された（大森ら, 2023）。主要魚種 20 種については一般化線形混合モデル解析によって出現の有無と関連付けられる複数の環境変数が明らかになり、とくに、河口からの堰堤の数、川幅、流速、水際を覆う植生の被度が多くの種の生息に影響を及ぼしていることも示された。霞ヶ浦に流入する最大の河川である桜川では 2020 年代の魚類相を採集調査によって把握したうえで、1980 年代から 2010 年代にかけて実施された魚類相調査のデータと比較することで、人為的環境改変による絶滅危惧種 4 種の消失や国内・国外外来種の増加傾向を明らかにした（渡邊ら, 2022）。北浦に流入する典型的な農業水路においては 1 年間にわたって遡上する魚類各種の個体数や体長の季節変動を調査し、農業水路も小河川のように一部の水産有用種の繁殖や成長の場として機能している可能性が示された（浜野ら, 2022）。これらの研究成果から、今後、霞ヶ浦流域において水産有用種や絶滅危惧種を含む在来魚の様々な生息環境を適切に保全していくうえで、堰堤への魚道の設置、水辺植生の管理、護岸構造の改良、外来種対策などを含む流入河川・水路再生計画の検討が急務であると考えられた。茨城県涸沼の塩性湿地においては絶滅危惧種ジュズカケハゼの仔稚魚の季節的出現や餌利用パターンを調査し、本種が初期生活史を通して塩性湿地のクリーク内に滞在し、そこで餌利用を変化させていることも明らかにした（Oguma et al., 2022）。東京湾岸の埋立地の塩性湿地に再生した大規模クリークにおいても植生管理や微地形改変を行い、生物群集を回復させる野外実験を開始した。茨城県の自然環境保全施策への貢献の一環で、ミュージアムパーク茨城県自然博物館や茨城県水産試験場の職員、県内の魚類の研究者とともに、茨城県内の淡水域から汽水域で確認された魚類に関する書籍と論文などを網羅的に収集・整理し、博物館や研究機関などに保管されている証拠標本・写真も精査したうえで、2022 年 5 月時点の茨城県産淡水・汽水魚類目録を作成した（山崎ら, 2022）。本目録については、茨城県版の外来種リストを作成する際にも用いられたほか、今後、絶滅の恐れのある種のリスト（レッドリスト）の改訂の際にも基礎資料として用いられることになる。

4. 帰還困難区域の山地溪流生態系における放射性セシウムの移行メカニズムに関する研究

中里 亮治



中里研究室では、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を受けた福島県浪江町内の帰還困難区域内の山地溪流に設定した空間線量率の異なる 3 箇所の調査地（図 1-5）において、2015 年から現在まで、

空間線量率、各種環境試料（山土、川砂、陸上落葉、渓流水）および渓流魚のイワナ・ヤマメの Cs-137 濃度の推移を調査している。また 2021 年度からは渓流魚の利用可能な食物源となる大型無脊椎動物についても調査項目に追加した。調査の結果、3 箇所の調査地すべてで、調査を開始した 2015 年から空間線量率と山土、川砂、渓流水の Cs-137 濃度は明瞭に低下していたが、2023 年 3 月の測定値は 2021 年 3 月のデータと比較して、全体的に値が高かった。これらのことから、2022 年以降は空間線量率や環境試料の Cs-137 濃度の値は下げ止まりの傾向にあると考えられた。渓流魚については、2015 年から 2023 年 3 月までの調査期間中に採捕されたヤマメとイワナの Cs-137 濃度は、すべての個体で食品の基準値である 100 Bq/kg を大きく超えていた。また、空間線量率の高い調査地の渓流で採捕した個体の Cs-137 濃度が高い傾向があることが分かったが、これらの濃度は同一調査地・同一種内においても個体間で大差が見られた。空間線量率や環境試料とは異なり、いずれの調査地においても渓流魚の Cs-137 濃度には時間経過に伴う明瞭な減少傾向は見られなかった。ヤマメやイワナの Cs-137 に大差が見られる要因は、溪流生態系内での食物網を通じた複雑な Cs-137 移行メカニズムの存在が一因であると推測されたため、2021～2022 年度は魚の餌生物となる陸生・水生昆虫類、並びにそれらの餌となる菌類、地衣類、林床や河床に供給される落葉、河川中の付着藻類・糸状藻類等など多岐にわたる生物の Cs-137 濃度を網羅的に調べた。また、水生昆虫と比較して体サイズの大きい陸生昆虫であり、雑食性のカマドウマ*については、1 個体毎に濃度測定をした。その結果、これらの試料の Cs-137 濃度は数百～数十万 Bq/kg の範囲にあることや（小川・中里ら, 2022）、カマドウマの濃度は個体差が非常に大きいこと（数千～数万 Bq/kg）が分かった（小川・中里ら, 印刷中）。既往研究によりカマドウマが渓流魚の主要な餌資源となっていること（Sato et al., 2012）、また本研究の調査地で採取したヤマメの胃内容物からカマドウマが確認されていることから（近藤・中里ら, 2022）、ヤマメやイワナの Cs-137 に大差が見られる要因の一つとして、Cs 濃度にばらつきのあるカマドウマを魚が食べたことによって、同一地点・同一魚種内での Cs-137 の濃度差が生じた可能性があることが示唆された。

なお、浪江町内での調査においては流域圏環境部門の研究協力者である鈴木仁根氏、加藤健一氏および佐藤忠明氏の献身的なご協力を得ましたことをこの場を借りてお礼いたします（図 1-6）。

*カマドウマは極めて広範な雑食性で、森林内では小昆虫やその死骸、腐果、樹液、菌類、落ち葉などを食べる。渓流魚の重要な餌資源とされている。

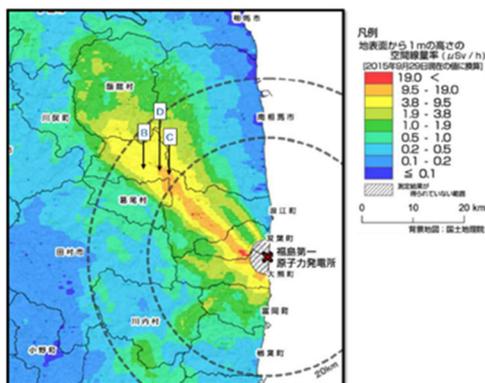


図 1-5 本研究における 3 箇所の調査地 (Site B, C, D) および 2016 年 9 月 29 日時点での空間線量率の測定結果 (空間線量率は原子力規制委員会 HP より一部改編して抜粋)。



図 1-6 浪江調査の研究拠点である鈴木仁根氏 (流域圏環境部門・研究協力者) の自宅敷地内にある新築のログハウスでの中里研究室ゼミの様子。

5. 土砂・マイクロプラスチック動態研究

山口 直文



山口研究室では、堆積物粒子の粒径分布に基づいた土砂動態の推定手法の検討と霞ヶ浦西浦・北浦における検証、鹿島灘波崎海岸におけるマイクロプラスチックの分布調査、津波などの非定常流下の土砂輸送の水路実験を実施した。湖沼では一般的に、複数の起源や堆積過程を経た土砂が集まることが多いため、湖底に残された堆積物はそれらを反映した複雑な粒径分布を持つ。こうした複雑な粒径分布について、まずより客観的かつ利用しやすい解析手法を検討した。粒径分布について、EM アルゴリズムを用いて対数正規分布に分離し、ベイズ情報量基準などを評価指標として構成される成分数を推定することで、フリーの環境で簡便に解析することができるようになった。霞ヶ浦北浦における調査で得られた湖底表層の堆積物に対して前述の手法を適用した結果、湖沼内で特徴的な粒径成分を抽出し、その特徴を対数比解析によって適切に統計処理を施すことで、地域によって異なる土砂動態の特徴を明らかにすることができた。また、西浦においても同様の傾向が見られるかを調べるため、霞ヶ浦環境科学センターと共同調査を行い、解析を進めた。マイクロプラスチックの調査では、一般的にそれらが細粒化する場所として注目されているものの、その分布が十分に調べられていない砂浜海岸に着目し調査を行った。鹿島灘に位置する波崎海岸は、港湾空港技術研究所の観測栈橋が設置されており、現在も一週間に 1 回の頻度で海底地形の変化が調べられており、マイクロプラスチックの分布とより大きな地形変化との関係を調べるのに適している。山口は 2021 年から、東京大学、東北大学、港湾空港技術研究所、国立歴史民俗博物館などの研究者と共同で調査を実施しており、2022 年においてもそれまでの成果を JpGU において公表するとともに 7 月と 9 月の 2 回の調査を実施した。その結果、調査直前の波浪の影響だけではない、より大きな地形変化の影響が明らかになった。津波のような非定常流の下での土砂輸送については、筑波大学の研究者と共同で水路実験を実施し、実際に実験で測定された土砂輸送量と、時系列流速データか

ら数値モデルで推算される土砂輸送量の比較を行った。その結果から、流れの特徴や水深の影響について検証することができた。

6. 沿岸海域や湖沼における水循環過程の研究

増永 英治



増永研究室では、日本沿岸海域、霞ヶ浦と南カリフォルニア沿岸海域における海水及び水循環過程を解明するために海洋観測や高解像度数値シミュレーションを用いた研究を実施した。日本沿岸海域を対象とした高解像度領域海洋モデルからは、潮汐により日本南岸を流れる黒潮の運動エネルギーの再分配が発生し、潮汐によるエネルギー散逸が促されるのと同時に黒潮に起因する大スケールの運動エネルギーが小スケールのサブメソスケール渦運動となり物質とエネルギー輸送に強く関わっていることを明らかにした (Masunaga et al., 2022)。また領域海洋モデルに粒子を放流し、擬似的に海洋内における物質輸送を再現した結果から、太平洋と日本海間の物質輸送過程が明らかとなり日本海と太平洋の水交換には日本海で形成される極前線や対馬暖流の流路と流量が関係していることがわかった。東京湾における長期モニタリングデータを解析した研究からは、河川水によって形成される水平密度勾配がエスチュアリー循環や鉛直混合をコントロールすることや、貧酸素水塊発生などの水環境問題の発生要因の詳細を明らかにした (到津・増永, 2022)。近年急速に開発が進んでいる洋上風力発電施設等に伴う海洋構造物の影響を評価するために、数値実験を行った。海洋構造物周辺では、理論通り乱流渦が発生することに加え、構造物の配置や成層条件によっても乱流渦や海洋の攪拌状況が異なることがわかった (山崎ら, 2022)。霞ヶ浦における長期モニタリングデータの解析から、湖沼の海岸線の地形および湖面積が風応力によって発生する水循環に大きく関わっていることがわかった (佐藤ら, 2022)。湖面積が小さく細長い地形をした北浦では、風応力の影響による混合が発生しにくく貧酸素水が西浦に比べ頻繁に発生していることがわかった。このことは、西浦で改善が進む水質問題が北浦では解消しにくいという、これまで報告されている両湖の水質改善の違いをし得る結果となった。また霞ヶ浦全体を解像した数値シミュレーションによる水循環再現実験からも、西浦と北浦の異なる湖沼地形が水の輸送や滞留時間に大きく影響をしていることがわかった。サバティカル制度を利用したスクリップス海洋研究所と行った共同研究では、沿岸域における内部潮汐と混合状態の高精度計測を行った。海底渓谷内で強められる海流や物質輸送を高解像度モデルで検証するとともに、沿岸域における海洋観測データから高精度に乱流混合状態を見積もることに成功した。

農業・生態系環境適応部門

7. 微生物資材を利用した水田由来温室効果ガス排出削減技術の開発

迫田 翠, 西澤 智康



(研究の背景・概要)

水田は温室効果ガスの一つであるメタンの主要な排出源のため、水田由来メタンの排出量削減が課題となっている。水田から発生するメタンは嫌氣的有機物分解の過程で土壌中のメタン生成古細菌により生成され、そのメタンはメタン酸化細菌により好氣的に消費される。水稻（日本晴）と相互作用する有用微生物資材を水稻種子に接種して栽培することで、水稻根域土壌の微生物群集の変動による水田土壌の物質循環系の制御が示唆された。

(研究の材料と方法)

微生物資材（KH32C 株）を利用して水稻栽培で発生する水田由来メタンの排出量およびその水稻根域に生息するメタン生成・消費に関する微生物群集の調査、栽培した玄米の品質調査を行った。本研究では、微生物資材を接種した日本晴の種子を栽培し、湛水期間中に発生するメタンの排出量を窒素施肥区と窒素無施肥のそれぞれで測定した。また、イネ根域土壌のメタン生成・酸化微生物群集の動態を評価するため、イネ根域土壌から RNA を抽出して土壌 cDNA を合成し、メタン生成古細菌が保有する *mcrA* およびメタン酸化細菌が保有する *pmoA* の定量的逆転写 PCR アッセイおよびアンプリコンシーケンス解析を行った。さらに、これらの結果について相関関係を明らかにした。

(研究成果)

積算メタン排出量（湛水期間中の総メタン排出量の推定値）は、窒素無施肥区および窒素施肥区のそれぞれの無接種栽培区と比較して KH32C 株接種無施肥区で 23.5%、KH32C 株接種-窒素施肥区で 17.2%減少した。また、微生物資材接種栽培区において低メタン生成・高メタン酸化の微生物群集構造への変動が示され、この微生物群集動態がメタン排出の低減に寄与したと推察される（図 1-7）。さらに、微生物資材接種栽培区では玄米の整粒割合も向上し、青未熟粒の割合が減少した。

今後、微生物とイネ科植物間の相互作用機序の解明により、土壌物質循環機能を担う微生物生態系の制御技術への応用が期待される。

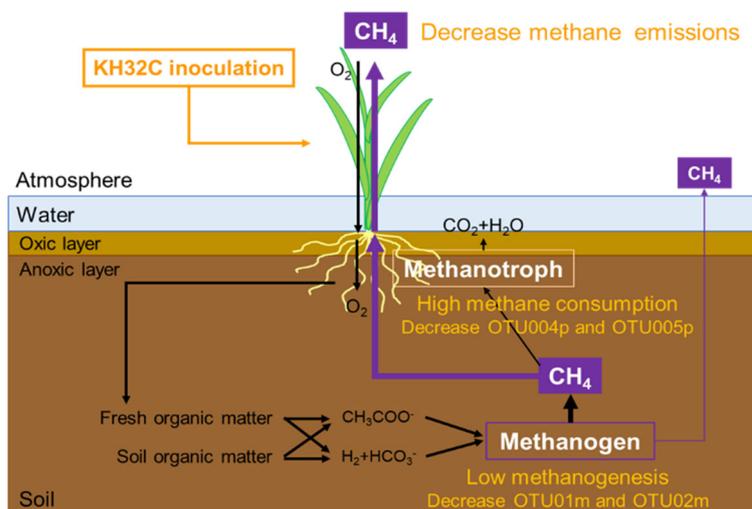


図 1-7 水田土壌における微生物生態および物質循環系機能

8. 施肥に伴う農耕地土壌から発生する一酸化二窒素の消去およびその資源の有効化

遠山 佳甫, 迫田 翠, 浅木 直美, 西澤 智康



(研究の背景・概要)

農法は土壌団粒構造の形成に関与して土壌中の有機物分解と土壌物質循環機能に影響を及ぼす。不耕起農法を実施した土壌で、冬期にイネ科カバークロップを栽培することにより、炭素の貯留や土壌侵食の抑制の効果だけでなく、土壌中の硝酸溶脱を抑制する効果もたらされる。農地の耕起を継続して実施した畑地を不耕起へ転換することにより畑地土壌から発生する温室効果ガスの一つである一酸化二窒素 (N₂O) 排出を低減できることが示された。

(研究の材料と方法)

茨城大学農学部附属国際フィールド農学センター内に耕起を実施した圃場を耕起区と不耕起区に分割して実験圃場を設置し、冬期にイネ科カバークロップ (ライムギ) を耕起土壌区および不耕起土壌区に移植して翌年の5月中旬まで栽培し、その後、刈り取ったライムギを土壌表層に敷設した。土壌の三相構造を調査し、土壌水分含量 (WFPS) [(液相率/液相率+気相率)×100]を算出し、無機態窒素量および土壌由来の N₂O フラックスを測定した。

(研究成果)

不耕起土壌の WFPS の分析結果から嫌氣的空間割合の増加が示唆され、土壌団粒構造の含水率が増加することによりアンモニア態窒素の生成を阻害することが示された。実験圃場で測定した N₂O フラックスの積算量を算出した結果、不耕起土壌区/耕起土壌区で最大 5.9 倍の N₂O 吸収が示された (図 1-8)。耕起から不耕起へ転換することにより土壌団粒構造内の嫌氣的空間割合が増加した結果、不耕起土壌では有機物分解速度が低下し、不耕起土壌中でのアンモニア態窒素保持力向上が示唆された。また、一時的に不耕起転換によって土壌から発生する N₂O を削減できることが示された。

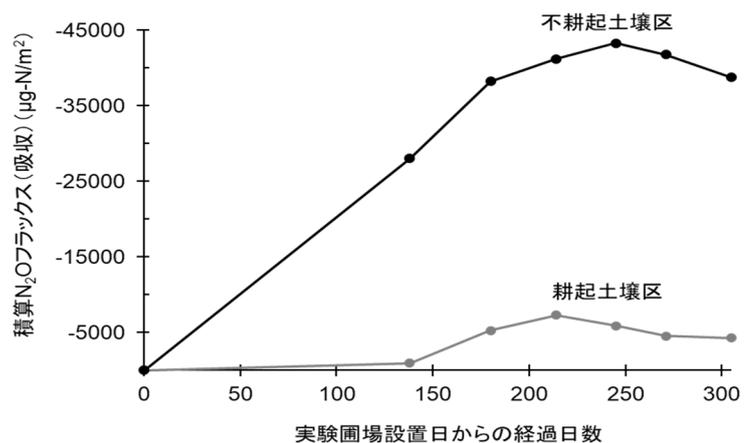


図 1-8 実験圃場における積算一酸化二窒素 (N₂O) 発生量

9. 霞ヶ浦河川流域の微生物生態系の群集動態解析

早川 美久, 郭 永, 迫田 翠, 正田 岳志, 中里 亮治, 西澤 智康



(研究の背景・概要)

農産業が盛んで食料生産地となっている茨城県南東部に位置する霞ヶ浦（北浦）では、流入する河川流域周辺から薬剤耐性菌が湖沼生態系へ拡散すること、また北浦への薬剤耐性菌の蓄積が懸念される。閉鎖的な水生環境である湖沼生態系における薬剤耐性細菌の実態を明らかにするため、霞ヶ浦（北浦）湖底堆積物中における湖底堆積物の分子生態学的解析を行った。堆積物中の遺伝情報を先行研究で報告した銚田川流域で分離されたテトラサイクリン耐性細菌と相同検索した結果、それら細菌分類群と一致したことから、テトラサイクリン耐性細菌が北浦湖底堆積物中で定着している可能性が示された。

(研究の材料と方法)

北浦の水深が異なる S1（北浦北部・水深 1-2 m）、S7（北浦湖心・水深 6-7 m）、S10（北浦南部・水深 2-3m）から、2021 年 11 月（21N）と 2022 年 11 月（22N）に重力式コアサンプラーを用いて深度 0-5 cm と深度 5-10 cm の湖底堆積物を採取した。湖底堆積物から DNA を抽出し、その DNA 中の細菌 16S rRNA 遺伝子（V3-V4）領域に基づくメタ・アンプリコンシーケンスを行った。得られた遺伝情報に基づく多変量解析および PICRUST2 を用いたバイオインフォマティクス解析を行った。

(研究成果)

メタ・アンプリコンシーケンスで得られた遺伝情報に基づく多変量解析から、細菌群集構造は地点間の類似性と採取年において類似性が示された（図 1-9）。また PICRUST2 解析から、霞ヶ浦（北浦）湖底堆積物中で多様な薬剤耐性細菌群集の定着が推定された。

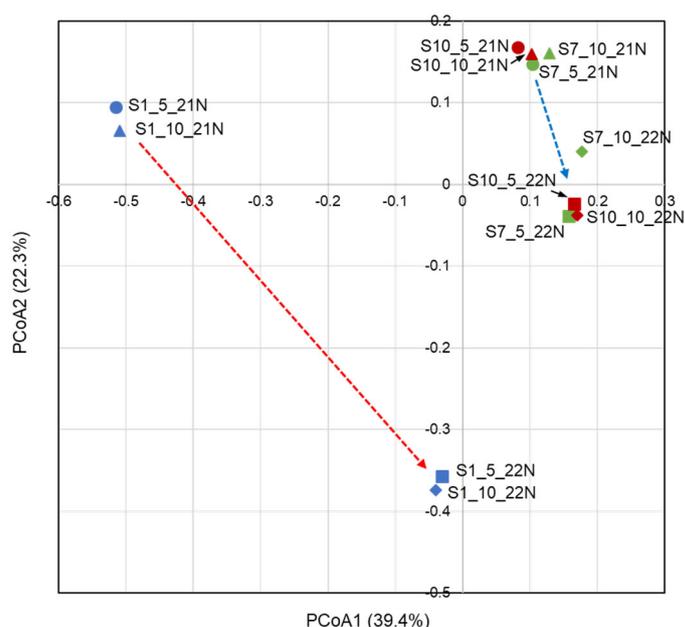


図 1-9 メタ・アンプリコンデータに基づく多変量解析

PCoA 第 1 主成分と第 2 主成分は、それぞれ地点間差と年間差を表す。サンプル名は、地点名_堆積物の深さ_採取年・月を表す。

人間・社会経済部門

10. 「ユージン・スミス」のフォトエッセイの研究

西野 由希子



人間・社会経済部門では、2020年～2022年に本部門が中心に行った茨城大学・日立製作所共同プロジェクト「地域デザイン」の成果を発展させ、「ユージン・スミス写真集」の研究を行った。11月に研究発表会を開催、研究発表会後に執筆された2本の報告を収録した報告書「ユージン・スミスが撮った日立一文学研究者が読み解くフォトエッセイの価値と地域へのまなざし」を作成し、2023年3月に刊行した。

(1) 2020年から2022年、本人間・社会経済部門のメンバーを中心に、日立製作所の研究者とともに共同研究を行った「地域デザイン」のチームでは、1960年、創業50周年を迎えるにあたって、日立製作所が著名な写真家ユージン・スミスに依頼し、1963年に完成したフォトエッセイ『Japan... a chapter of image (日本、そのイメージの一章)』に着目した。日立市郷土博物館の学芸員・大森潤也氏による研究や同館での展示などが行われていたが、フォトエッセイ本体は、当時、茨城県内の公立図書館等には所有されていなかったため、2021年3月、本学図書館が写真集を購入して、研究メンバーや、地域の方々との研究を開始した。

(2) 本部門では、2021年6月28日にこの資料について紹介し、活用について発表や意見交換を行う公開研究会『発見！ユージン・スミスが撮った1960年代の“ひたち”』を企画し、開催した。この会は、COVID-19の状況によりオンラインで開催したが、一般市民、日立製作所の関係者など多くの方に関心を持って参加いただくことができた。その後、COVID-19で制約のある中ではあったが、写真家・松本美枝子氏の企画したワークショップ「写真を通して過去と未来を考える～ユージン・スミスの写真集から～」(2021年11月23日、メゾンケンポク)で市民による意見交換を行うなど、フォトエッセイを活用した研究や地域活動を行った。

(3) 2022年度は、上述「茨城大学・日立製作所共同プロジェクト」の成果を発展させ、本学の研究者がそれぞれの専門の角度から本フォトエッセイを研究することを部門としてバックアップした。その研究成果を発表する機会として、2022年11月19日、日立製作所の「日立オリジンパーク」会議室を会場に、公開研究発表会「ユージン・スミスが撮った日立(HITACHI)―茨城大学の文学研究者たちが読み解くフォトエッセイの価値」を開催した。

発表は本学の研究者、教育学部・君塚淳一教授、人文社会科学部/GLEC人間・社会経済部門長の西野由希子の2名と、本学卒業生であり長く本フォトエッセイを研究している日立市郷土博物館の学芸員・大森潤也氏が行い、会場では、参加者に自由に閲覧等していただけるようフォトエッセイや、本会のために提供された関連の資料、研究の中で発見された新資料などを展示した。また、研究発表を受けた工学部鎌田賢教授による総括(講評)では、本共同研究の意義や本学工学部との関係などについてコメント



され、参加者と共に今後の地域研究、地域貢献について考える機会となった。

参加者は本学の教職員・院生学生、一般の参加者等 40 名で、「茨城新聞」の取材があり、同紙に記事が掲載された。本学 HP にも広報室によるレポートが掲載された。

(<https://www.ibaraki.ac.jp/news/2022/12/07011799.html>)

(4) 2023 年 3 月には、上記の公開研究発表会での口頭発表に加筆等を行った論文 2 本を中心に、報告書「ユージン・スミスが撮った日立一文学研究者が読み解くフォトエッセイの価値と地域へのまなざし」を作成、刊行した。

西野は「地域にとっての「ユージン・スミス写真集」」において、①フォトエッセイ刊行までの経緯について整理したうえで、今回あらたに発見された、「フォトエッセイ『Japan...a chapter of image』の「送り状」」を紹介した。この送り状は、「1964 年 3 月 1 日 株式会社 日立製作所宣伝部」から、ある大手新聞社の写真部に所属する、著名な日本人写真家にあてたものである。この「送り状」の文面で、西野は、ユージン・スミスの写真は「約 1 年間に亘り、日立製作所の各工場を中心に撮影したもので、日立の PR だけにとどまらず、日本の生活様式なども描写」されている、と紹介していること、「日立製作所宣伝部が企画立案し、ユージン・スミス氏自からレイアウトと詩的なコピーによって完成」されたと記述されていることに注目する。フォトエッセイは、当初、日立製作所がユージン・スミスに依頼したときに想定していたものと異なっていたという指摘がされているが、本「送り状」は完成したフォトエッセイの特徴と魅力をよく理解している。さらに西野は本フォトエッセイの文章と構成を分析し、ユージン・スミスの文学的な創造力・構成力を高く評価する。②本フォトエッセイは 1960 年日立製作所の創業 50 周年の記念事業として企画されたものだが、同社では、1961 年日立経営研修所を設立、研修事業を開始しており、1962 年に我孫子研修所・本館が完成している。この我孫子研修所には 1972 年に別館が建設され、2015 年、旧施設に代わる新しい建物が新築されて、現在、使用されている。組織の改編等により、2019 年から運営者は日立アカデミーとなり、「我孫子キャンパス」として使用されているこの新しい建物のコミュニティラウンジに、ユージン・スミスのフォトエッセイの写真 8 枚がデザインされている。設計に携わった日立製作所デザイン研究所の担当者が提案して実現したものであることが、西野の今回の調査で明らかになったが、日立製作所が人材育成や教育・文化事業を重視してきたことの表れであると西野は位置づけている。

以上、2022 年度の「ユージン・スミス写真集の研究」については、本学の 2022 年度「重点・戦略的経費」の支援を受けた。また、本人間・社会経済部門の教員は、茨城県内自治体（県、市町村）と強い関係をもっており、研究・教育のほか、自治体事業へ各種の協力を行っている。



(2) 共同研究成果

1. 国文学研究資料館異分野融合共同研究「歴史資料を活用した減災・気候変動適応に向けた文理融合研究の深化」

田村 誠, 小荒井 衛, 野澤 恵, 添田 仁



茨城大学地球・地域環境共創機構(GLEC)と国文学研究資料館は、2020年度より「歴史資料を活用した減災・気候変動適応に向けた文理融合研究の深化」というテーマで4年間の研究プロジェクトを実施している。2022年度は下記の調査、活動を行った。

- ・ 5月22日に国文学研究資料館50周年記念シンポジウムにて、「歴史学的アプローチと理工学的アプローチを組み合わせた防災研究」という題名で講演を行った。
- ・ 日本での海面上昇の気候変動影響予測を実施し、防護や移転といった適応策を解析し、防護費用および移転費用を推計した。今後は、過去の災害対応と将来の気候変動適応の類似点と相違点を検証する。
- ・ 1847年善光寺地震、2011年長野県北部の地震（栄村の地震）、2014年長野県北部の地震（白馬村の地震）等で建物被害等が酷かった新潟県津南町・長野県栄村・飯山市・白馬村等で常時微動計測を行い、推定した地盤条件と地震被害の関係を検討した。今後は、津南町の宮野原断層周辺や飯山市周辺で稠密な計測を行い、活断層の活動履歴を明らかにし、断層と地震被害との関係性の解明に取り組む予定である。
- ・ 2015年の鬼怒川決壊地点である茨城県常総市石下周辺で常時微動計測を行い、地盤振動特性から地下の砂層の分布状況を推定し、2万年前以降の河道変遷の履歴の推定を試みた。今後は、過去に同様の研究を行った古文書が見つかり惣囲堤が存在していた三坂新田・沖新田地区の河道変遷推定結果と繋ぎ合わせ、本地域の広域的な河道変遷の履歴を推定する。
- ・ 江戸時代と明治時代の文書資料を読み解き、関東造盆地運動により古墳時代以前からテクトニックな沈降が継続している埼玉県北東部（行田市周辺）において、利根川決壊による洪水災害の近世と近代の様相の違いを検討した。
- ・ レジリエントな水害対策としての水塚に着目し、近年どんどん失われている水塚の痕跡について、航空レーザ測量データから抽出可能かどうかを茨城県龍ヶ崎市周辺で検討し、抽出可能な条件を明らかにした。
- ・ 2月22日に水戸市立博物館の藤井氏、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所の堀内氏を招聘し、那珂川の水害と適応策に関するセミナーを開催した。3年ぶりのハイブリッド開催で合計46名(現地25名、オンライン21名)の参加があった(図2-1)。

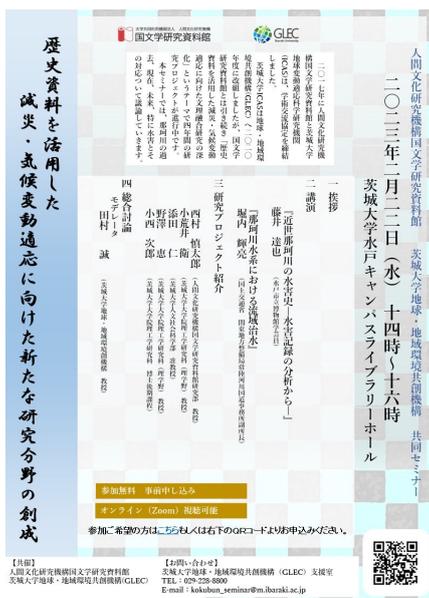


図 2-1 国文学研究資料館セミナー（2月22日）の様子

2. 第4次茨城県環境基本計画の策定及び茨城県地球温暖化対策実行計画の改定

横木 裕宗, 田村 誠, 若月 泰孝, 小寺 昭彦



茨城県では令和4年度に第4次茨城県環境基本計画を策定し、茨城県地球温暖化対策実行計画を改定した。茨城県地域気候変動適応センター(iLCCAC)からは横木センター長が地球温暖化対策実行計画策定小委員会、田村副センター長が環境審議会、環境基本計画策定小委員会に参加し、計画改定支援を行った。今回の改定では、これまで取り組んできた5つの分野を重点的に取り組む分野とするのに加えて、県民生活分野、産業・経済活動分野についても新たに本計画に位置付けることになった（図2-2）。

特に、茨城県地球温暖化対策実行計画の第5章「気候変動への適応策」には茨城県地域気候変動適応センターの役割、関係者による気候変動研究の成果が紹介されている。

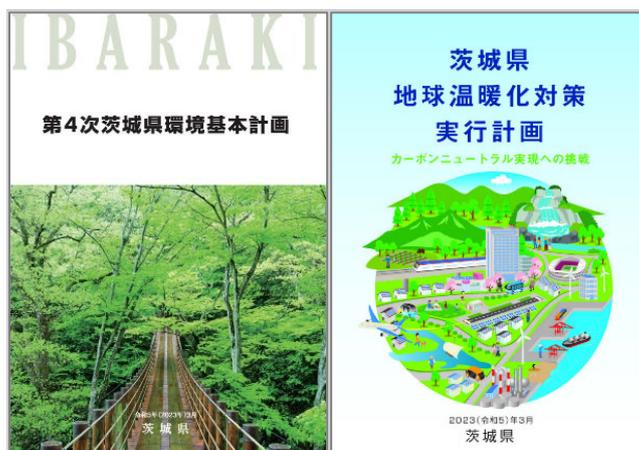


図 2-2 第4次茨城県環境基本計画及び茨城県地球温暖化対策実行計画

(3) 研究論文成果

3. 1 専任教員・研究員

著書

田村 誠

- ・ 分担執筆, 田村誠, 「IPCC 第2作業部会(WG2): 影響・適応・脆弱性」, 水文・水資源学会(編)『水文・水資源ハンドブック 第二版』, 単行本(学術書), 朝倉書店, 2022/10/01, ISBN978-4-254-26174-5

山口 直文

- ・ 分担執筆, [総編集] 伊藤慎, [編集顧問] 池原研, 高野修, [執筆者] 山口直文 ほか45名, 第1章 1.1.2 「波と振動流の基本的な性質」, 1.1.3 「沿岸域の流れ」, 1.2.5 「振動流によるベッドフォーム」, 第2章 2.5 「振動流で形成された堆積構造: ウェーブリップル葉理」, 2.6.1 「ハンモック状斜交層理」, フィールドマニュアル 図説 堆積構造の世界, 単行本(学術書), 朝倉書店, 2022/07/01, ISBN 978-4-254-16279-0

学術誌論文

藤田 昌史

- ・ Akther S, Sun W, Suzuki J, Fujita M, Tolerance of benthic foraminifer *Calcarina gaudichaudii* to polycyclic aromatic hydrocarbon pyrene: effects on photosynthesis, *Coral Reefs*, 41, 1585-1594, 2022/12, DOI: 10.1007/s00338-022-02318-8
- ・ Pokhrel P, Suzuki J, Fujita M, Integrated biomarker responses of a brackish water clam to global warming conditions, *Journal of Water and Environment Technology*, 20/ 6, 238-247, 2022/12, DOI: 10.2965/jwet.22-066
- ・ Zhao G, Suzuki S, Deng J, Fujita M, Machine learning estimation of biodegradable organic matter concentrations in municipal wastewater, *Journal of Environmental Management*, 323, 116191, 2022/12, DOI: 10.1016/j.jenvman.2022.116191
- ・ Deng J, Zhao G, Wang F, Fujita M, A simulation of acetate consumption and electric charge production in a single microbial fuel cell considering the diversity of nonelectrogenic bacteria, *Bioprocess and Biosystems Engineering*, 45, 1857-1864, 2022/11, DOI: 10.1007/s00449-022-02792-y
- ・ 三浦七海, 鄧家豪, 吳青栩, 鈴木準平, 藤田昌史, 汽水性二枚貝ヤマトシジミの開閉運動に及ぼす底質組成の影響, *土木学会論文集 B2 (海岸工学)*, 78/ 2, I_781-I_786, 2022/11, DOI: 10.2208/kaigan.78.2_I_781
- ・ Pokhrel P, Mashiko S, Akther S, Suzuki J, Fujita M, Antioxidant capacity and carbon-based scope for growth of brackish water clams *Corbicula japonica* under the combined effects of natural and anthropogenic factors, *Environmental Pollution*, 308, 119676, 2022/09, DOI: 10.1016/j.envpol.2022.119676

加納 光樹

- ・ 加納光樹他, 東日本の海跡湖「北浦」に流入する農業水路における遡上魚類の季節変化, *うみ*, 60, 25-35, 2023/01

- ・ 大森健策, 諸澤崇裕, 加納光樹, 北浦の 23 本の流入河川における魚類の分布パターンと生息環境特性, 水生動物, 2023, AA2023-1, 2023/01/05
- ・ 渡邊美如々, 木村将士, 碓井星二, 根本隆夫, 外山太一郎, 宮崎淳一, 加納光樹, 霞ヶ浦の流入河川「桜川」における魚類相とその長期的変遷, 水生生物, 2022, AA2022-16, 2022/08/23, DOI10.34394/aquaticanimals.2022.0_AA2022-16
- ・ Oguma, S., S. Kaneko, K. Kanou, Seasonal occurrence and food habits of larvae and juveniles of the threatened goby *Gymnogobius castaneus* in a salt marsh in Lake Hinuma, eastern Japan, Aquaculture Science, 70, 65-73, 2022/04/20

田村 誠

- ・ Masutomi, Y., T. Takimoto, T. Manabe, Y. Imai, M. Tamura, K. Kobayashi, Breeding Targets for Heat-tolerant Rice Varieties in Japan in a Warming Climate, Mitigation and Adaptation Strategies for Global Change, 28/ 1, 1-19, 2023/01/06, DOI10.1007/s11027-022-10027-4
- ・ 児玉康希, 横木裕宗, 田村誠, 人口・土地利用シナリオに基づく日本沿岸域の海面上昇の社会経済影響評価, 土木学会論文集 G (環境), 78/ 5, I_349-I_357, 2022/08/31, DOI10.2208/jscejer.78.5_I_349
- ・ 今村航平, 田村誠, 横木裕宗, 日本の沿岸域の海面上昇に対する住宅移転策の費用推計, 土木学会論文集 G (環境), 78/ 5, I_359-I_370, 2022/08/31, DOI10.2208/jscejer.78.5_I_359

増永 英治

- ・ 増永英治, 沿岸域における混合過程と水理環境に関する研究: 内部潮汐と混合現象, 日本海洋学会, 海の研究 (Oceanography in Japan), 32/ 2, 37-65, 2023/03, DOI10.5928/kaiyou.32.2_37
- ・ 玉井駿壮, 内山雄介, Xu Zhang, 増永英治, 辻一洋, 山崎秀勝, 領域海洋モデルを用いた洋上風力発電施設の適地選定システム開発に関する基礎的研究, 土木学会論文集 (B2 海岸工学), 78/ 2, I_1009-I_1014, 2022/11
- ・ 佐藤和貴, 増永英治, 北村立実, 沿岸地形が影響する風応力による鉛直混合の観測と評価, 研究論文 (学術雑誌), 土木学会論文集(B2 海岸工学), 78/ 2, I_763-I_768, 2022/11
- ・ 到津春樹, 増永英治, 複数定点観測データを用いた東京湾における水平物理構造と混合状態の評価, 土木学会論文集(B2 海岸工学), 78/ 2, I_379-I_384, 2022/11
- ・ 山崎彩花, 増永英治, 内山雄介, 辻一洋, 山崎秀勝, 定常流, 振動流及び密度成層を考慮した海洋構造物周辺の数値実験, 土木学会論文集 (B1 水工学), 78/ 2, I_295-I_300, 2022/09
- ・ Xu Zhang, Yusuke Uchiyama, Eiji Masunaga, Yota Suzue and Hidekatsu Yamazaki, Seasonal variability of upper ocean primary production along the Kuroshio off Japan: Roles of eddy-driven nutrient transport, Frontiers in Marine Science, 2022/08, DOI10.3389/fmars.2022.990559
- ・ S. Itoh, E. Tsutsumi, E. Masunaga, T. T. Sakamoto, K. Ishikawa, D. Yanagimoto, Y. Hoshiba, H. Kaneko, D. Hasegawa, K. Tanaka, H. Fukuda and T. Nagata, Seasonal cycle of the confluence of the Tsugaru Warm, Oyashio, and Kuroshio currents east of Japan, Journal of Geophysical Research: Oceans, 127/ 8, e2022JC018556, 2022/08
- ・ Eiji Masunaga, Yusuke Uchiyama, Xu Zhang, Waku Kimura and Taichi Kosako, Modulation of submesoscale

motions due to tides and a shallow ridge along the Kuroshio, *Deep Sea Research: Part I*, 186, 103828, 2022/08

- ・ 北村立実, 鮎川和泰, 増永英治, 小室俊輔, 大内孝雄, 湯澤美由紀, 浅岡大輝, 三上育英, 清家泰, 福島武彦, 自動昇降装置を用いた夏季における北浦の水温成層と貧酸素水塊の形成・消失およびリン溶出過程の検討, *水環境学会誌*, 45/ 3, 135-143, 2022/06

三村 信男

- ・ Hirschfeld, D., N. Mimura, H. Yokoki et al: Global survey shows planners use widely varying sea-level rise projections for coastal adaptation. *Common Earth Environ* 4, 102 (2023). *Communications Earth and Environment*, 4:102, (2023). doi:10.1038/s43247-023-00703-x

安原 一哉

- ・ 渡辺真大, 小林薫, 安原一哉, 足立雅樹, 「ジオテクスタイル端部拘束によるハンモック効果を活かした液状化対策工法に関する研究」, *ジオシンセティックス論文集 第37巻* pp.19-24, 2022/12

今村 航平

- ・ Q. Tan, K. Imamura, K. Nagasaka, M. Inoue, “Marketing Strategies for Certified Wood Flooring in China: The Gap in Manufacturers’ and Developers’ Perceived Benefits”, *BioProducts Business*, Vol.7, No.2, pp.19-32, 2022/06/28, <https://doi.org/10.22382/bpb-2022-002>
- ・ 今村航平, 田村誠, 横木裕宗, 「日本沿岸域の海面上昇に対する住宅移転策の費用推計」, 『土木学会論文集 G (環境)』, 78 巻, 5 号, I_359-I_370, 2023/01/24, https://doi.org/10.2208/jscejer.78.5_I_359

石川 由紀

- ・ Y. Ishikawa-Ishiwata, Y. Nagahama, T. Kitamura, M. Yuzawa, “Will *Planktothrix* spp. become dominant again in Lake Kasumigaura? Analysis of phytoplankton community dynamics”, *Hydrobiologia*, 10.1007/s10750-023-05196-5, 2023/01
- ・ Y. Ishikawa-Ishiwata, Y. Nosaka, T. Usui, H. Sasaki, “Growth characteristics and fatty acids of the thermotolerant green alga *Desmodesmus* sp. isolated from a freshwater puddle in Ibaraki, Japan”, *Plankton and Benthos Research*, Vol. 18: p. 1-10, 2023/02

堅田 元喜

- ・ G. Katata, R. Connolly, and P. O’Neill, Evidence of urban blending in homogenized temperature records in Japan and in the United States: implications for the reliability of global land surface air temperature data, *J. Appl. Meteorol. Climatol*, in press, 2023
- ・ G. Katata, T. Yamaguchi, M. Watanabe, K. Fukushima, M. Nakayama, H. Nagano, J. Koarashi, R. Tateno, and T. Kubota, Atmospheric ammonia deposition and its role in a cool-temperate fragmented deciduous broad-leaved forest, *Atmos. Environ.*, 298, 119640, 2023
- ・ G. Katata, M. Watanabe, S. Oikawa, A. Takahashi, T. Kubota, Y. Takase, T. Enomoto, N. Sakagami, Y. Suzuki, K. Fukushima and M.U. Ueda, Evidence of NO_x and O₃ concentration reduction by kudzu (*Pueraria lobata*)

invasion at a Japanese highway, Atmos. Poll. Res., 14, 101644, 2023

国際会議論文

石川 由紀

- ・ Y. Ishikawa-Ishiwata, A.T. Htun, “Assessment of climate change impact on rice yield and area in each ecological region in Myanmar with statistical analysis”, International Conference on Sustainability in Engineering and Agriculture, ICSEA Proceeding Book, 2022 p. 29-34

学所内報告

加納 光樹

(研究論文 (大学, 研究機関紀要))

- ・ 山崎和哉, 外山太一郎, 大森健策, 金子誠也, 諸澤崇裕, 稲葉修, 増子勝男, 萩原富司, 荒山和則, 加納光樹, 写真に基づく茨城県産淡水・汽水魚類目録の再検討, 茨城県自然博物館研究報告, 25, 79-93, 証拠標本, 2022/12/23
- ・ 金子誠也, 山崎和哉, 外山太一郎, 大森健策, 中寫政明, 加納光樹, 茨城県久慈川感潮域の魚類相, 茨城県自然博物館研究報告, 27, 27-40, 2022/12/23

その他 (国内学会発表、口頭発表、論説等)

藤田 昌史

(国内学会発表)

- ・ Pokhrel P, Miura N, Saputra HK, Fujita M, Effects of Climate Change Related Factors on Brackish-Water Clam *Corbicula Japonica*, 第 57 回日本水環境学会年会, 2023/03
- ・ 岡本寛大, 藤田昌史, 全国都道府県における水環境・水資源分野の気候変動適応策の評価, 第 57 回日本水環境学会年会, 2023/03
- ・ 早川圭亮, 藤田昌史, 高濃度二酸化炭素を用いた汽水性二枚貝ヤマトシジミの石灰化の促進, 第 57 回日本水環境学会年会, 2023/03
- ・ 中村陵祐, オウス謙治, Zhao G, 藤田昌史, 都市河川下流域における塩水遡上の影響要因の解析, 第 57 回日本水環境学会年会, 2023/03
- ・ 三浦七海, Saputra HK, Pokhrel P, 藤田昌史, マイクロプラスチックが汽水性二枚貝ヤマトシジミの開閉運動と成長力に及ぼす影響, 第 57 回日本水環境学会年会, 2023/03
- ・ オウス謙治, 中村陵祐, Zhao G, 藤田昌史, 機械学習を用いた都市河川下流域における塩水遡上の予測, 第 57 回日本水環境学会年会, 2023/03
- ・ オウス謙治, 中村陵祐, Zhao G, 藤田昌史, 機械学習による茨城県久慈川の塩水遡上の影響要因の評価, 土木学会関東支部技術研究発表会, 2023/03

(講演)

- ・ 最近の下水道分野の研究について, 茨城県鹿島下水道事務所, 2022/09

- ・ 下水道工学の基礎について, 株式会社エーバイシー, 2023/01

中里 亮治

((MISC) 速報, 短報, 研究ノート等 (学術雑誌))

- ・ 吉田光, 中里亮治, 桑原祐史, UAV による空撮画像を用いた付着藻類・コケ類分類図の作成 -福島県浪江町の溪流を対象として-, 土木学会論文集 G (環境), 78/ 5, 17-25, 2023/01/24, DOI 10.2208/jscej.78.5_I_17

研究論文 (研究会, シンポジウム資料等)

- ・ 近藤陸人, 樽井美香, 小川侑真, 斉藤智幸, 岩瀬広, 加藤健一, 佐藤忠明, 鈴木仁根, 苅部甚一, 中里亮治, 活魚測定による帰還困難区域の山地溪流に生息するヤマメ・イワナの 137Cs 濃度の個体別追跡調査, 高エネルギー加速器研究機構 (KEK), 第 23 回「環境放射能」研究会 Proceedings, 76-81, 2022/11
- ・ 小川侑真, 近藤陸人, 樽井美香, 苅部甚一, 加藤健一, 佐藤忠明, 鈴木仁根, 中里亮治, 帰還困難区域の山地溪流に生息する大型無脊椎動物の放射性セシウムについて, 高エネルギー加速器研究機構 (KEK), 第 2 3 回「環境放射能」研究会 Proceedings, 70-75, 2022/11

((MISC) 会議報告等)

- ・ 中里亮治, 小松崎将一, 苅部甚一, 佐藤志彦, 農作物のセシウム量の低減と土壤改良および遊漁対象となる溪流魚のセシウム・ストロンチウム濃度のモニタリングとそれらの移行メカニズム解明-農・水産業の持続的発展に向けて, 2021 年度 連携重点研究 成果報告書, 2022/06

(国内学会発表, 口頭発表)

- ・ 江口貴博, 中田裕希, 樽井美香, 中里亮治, 苅部甚一, 福島県内における山林斜面から河川への放射性ストロンチウムの移行経路の把握, 第 30 回環境化学討論会, 2022/06/15
- ・ 中田裕希, 江口貴博, 樽井美香, 中里亮治, 田副博文, 田中敦, 苅部甚一, 福島県沿岸海域における貝殻中の放射性ストロンチウム濃度の変化, 第 30 回環境化学討論会, 2022/06/15
- ・ 苅部甚一, 江口貴博, 中田裕希, 樽井美香, 中里亮治, 鈴木仁根, 加藤健一, 田副博文, 田中敦, 福島第一原子力発電所事故後の溪流魚の骨における放射性ストロンチウム濃度の変化, 第 30 回環境化学討論会, 2022/06/15
- ・ 中里亮治, 樽井美香, 近藤陸人, 小川侑真, 山本昂成, 櫛井優志, 鈴木仁根, 加藤健一, 佐藤忠明, 苅部甚一, 帰還困難区域の山地溪流環境における放射性セシウム濃度の推移について—2015 年から 2022 年までのモニタリングの結果から—, 霞ヶ浦流域研究 2023, 2023/03/05
- ・ 近藤陸人, 樽井美香, 小川侑真, 山本昂成, 斉藤智幸, 中里亮治, 岩瀬広, 加藤健一, 佐藤忠明, 鈴木仁根, 苅部甚一, 帰還困難区域に生息する溪流魚の放射性セシウム移行メカニズムについて, 霞ヶ浦流域研究 2023, 2023/03/05
- ・ 苅部甚一, 江口貴博, 中田裕希, 樽井美香, 中里亮治, 福島第一原子力発電所事故に由来する放射性ストロンチウムの小集水域における挙動, 霞ヶ浦流域研究 2023, 2023/03/05
- ・ 山本昂成, 小川侑真, 近藤陸人, 中里亮治, 帰還困難区域の山地溪流における藻類の放射性セシウム濃度の季節変化, 霞ヶ浦流域研究 2023, 2023/03/05
- ・ 小川侑真, 近藤陸人, 山本昂成, 中里亮治, 苅部甚一, 加藤健一, 佐藤忠明, 鈴木仁根, 帰還困難区域

の溪流・森林環境中に生息する無脊椎動物の放射性セシウム濃度について, 第 24 回「環境放射能」研究会, 2023/03/07

田村 誠

(ポスター発表)

- SSP 人口・土地利用シナリオに基づく日本沿岸域の海面上昇に伴う浸水影響評価, JpGU2022, 2022/06/01

(口頭発表 (一般))

- “Assessing impacts and adaptations against sea level rise in Japanese coastal areas,” WCRP Sea Level Conference 2022, 2022/07/13

増永 英治

(口頭発表 (一般))

- Circulation and water exchange in shallow lakes influenced by wind-induced mixing, JpGU Meeting 2022, 2022/05

(口頭発表 (招待・特別))

- Observations of vertical mixing and associated transport in a shallow lake, Lake Kasumigaura, Japan, JpGU Meeting 2022, 2022/05

山口 直文

(発表等種別 口頭発表 (一般))

- 山口直文, 「簡便に粒度分布を成分分離する試み」, 日本堆積学会 2022 年オンライン大会, 2022/04/23
- 石澤堯史, 後藤和久, 山口直文, 伴野雅之, 篠崎鉄哉, 佐藤海生, 「茨城県波崎海岸の堆積物中におけるマイクロプラスチックの空間分布に関する予察的検討」, 日本地球惑星科学連合 2022 年大会, 2022/05/22
- 山口直文, 安藤毅, 榎木田浩孝, 中田夏海, 八巻翔太, 「多峰性粒度分布から分離された粒径成分の特徴と堆積過程への示唆: 霞ヶ浦北浦の湖底表層堆積物の例」, 日本地球惑星科学連合 2022 年大会, 2022/05/30

三村 信男

- Mimura, N., Y. Hijioka, Our Warming Planet: Climate Change and Natural Disasters in Japan, Bi-weekly Seminar Series, Columbia University, 2022/06
- 三村信男, 気候変動にレジリエントな都市、日本環境共生学会×環境省・(独) 環境再生保全機構「環境研究総合推進費」公開シンポジウム 基調講演, 2022/09
- 三村信男, 気候変動への対応と持続可能でレジリエントな社会、日本学術会議 in つくば「持続的かつレジリエントな道筋への移行」基調講演, 2023/02
- Nobuo Mimura, Urgent Action with Integrated Approach for Climate Change, G-Science Academies International Symposium, Japan Academy, 2023/03

- ・ 三村信男, 気候変動の現状と土木の課題、土木学会第 50 回関東支部技術研究発表会特別講演, 2023/03
- ・ Yoshikawa, S., N. Mimura, Socioeconomic Scenarios for S-18 Project Research, Japan Geoscience Union Meeting 2022, 2022

今村 航平

(口頭発表)

- ・ 今村航平, 田村誠, 横木裕宗, 「日本沿岸域の海面上昇に対する住宅移転策の費用推計」, 『第 30 回地球環境シンポジウム』, 2022/09/02

石川 由紀

- ・ Y. Ishikawa-Ishiwata, A.T. Htun., “Assessment of climate change impact on rice yield and area in each ecological region in Myanmar with statistical analysis”, International Conference on Sustainability in Engineering and Agriculture, ICSEA at Vietnam Japan University, 2022/10
- ・ 石川（石渡）由紀, Hien Nguyen Thanh, 長濱祐美, 湯澤美由紀, ”霞ヶ浦におけるワカサギ漁獲量の推移とプランクトン動態” 霞ヶ浦流域研究, 2023/03

3. 2 兼務教員

著書

添田 仁

- ・ 添田仁, 平野哲也, 千葉真由美, 坂本達彦他, 常陸大宮市史資料叢書 1 近世 1 上伊勢畑村御用留, 常陸大宮市, 2023/01

野田 真里

- ・ 分担執筆, 野田真里, 『よくわかる開発学』, 教科書, ミネルヴァ書房, 担当範囲 I開発協力へのアプローチの理論の変遷と展開「8 参加型開発」, IX コミュニティ開発「1 NGO とコミュニティ開発」, 「2 NGO とコミュニティ開発の事例: スリランカのサルボダヤ運動」, 2022/10/30, ISBN 978-4-623-09455-4

原口 弥生

- ・ 編者, 環境社会学会編, 環境社会学事典, 事典・辞書, 丸善出版, 担当範囲「環境正義運動」「原発再稼働と住民合意」, 2023/03/30, ISBN 978-4-621-30754-0

岡田 誠

- ・ 分担執筆, 日本古生物学会 編, 西弘嗣 編集委員長, 古生物学の百科事典, 丸善出版, 担当範囲第 2 章【層序と年代】・古地磁気層序学・[コラム]千葉セクション, 第 3 章【地史】・第四紀・更新世, 2023/02/01, ISBN 978-4-621-30758-8

小荒井 衛

- ・ 分担執筆, 加藤禎一, 脇田浩二, 斉藤眞, 高木哲一, 水野清秀, 宮崎一博 編, 日本列島地質総覧 地史・地質環境・資源・災害, 単行本 (学術書), 朝倉書店, 2.2.5 埋立てと地形改変, 2022/06/01, ISBN 978-4-254-16277-6
- ・ リモートセンシング事典, 事典・辞書, 丸善出版, 2022/12/30, ISBN 978-4-621-30776-2
- ・ 茨城県北ジオブック単行本 (一般書), 茨城新聞社, 2022/09/17, ISBN978-4-87273-468-3

外岡 秀行

- ・ 編集委員長, 外岡秀行, 日本リモートセンシング学会編, 『リモートセンシング事典』(丸善出版), 978-4-621-30776-2, 2022/12/30

坂上 伸生

- ・ 単著, 坂上伸生, 土壌と植生の生態システム【日本地理学会 (編)「地理学事典」】, 事典・辞書, 丸善出版, 2023/01, ISBN 978-4-621-30793-9

学術誌論文

伊藤 孝

- ・ 永沢亜矢子, 伊藤孝, 月の見え方を捉えるための「二つ折り月と太陽モデル」の開発と単元構成の工夫, 日本地学教育学会, 地学教育, 75/ 3, 83-100, 2023/01/25, DOI1 10.18904/chigakukyoiku.75.3_83, https://www.jstage.jst.go.jp/article/chigakukyoiku/75/3/75_83/_article/-char/ja/, ISSN 2423-8953
- ・ Komuro, K. and Ito, T., Wiley, Resource Geology, Chemical Compositions of the Neogene bedded manganese deposits in the Fukaura area, Northeast Japan, 72/ 1, e12299, 2022/09/27, DOI1 10.1111/rge.12299, <https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/rge.12299>

原口 弥生

- ・ Noriko Sodeyama, Sho Takahashi *, Miyuki Aiba, Yayoi Haraguchi, Tetsuaki Arai, Hirokazu Tachikawa, A comparison of mental health among earthquake, tsunami, and nuclear power plant accident survivors in the long term after the Great East Japan Earthquake, MD, International Journal of Environmental Research and Public Health, 19/ 21, 14072, 2022/10, DOI1 10.3390/ijerph192114072
- ・ Noriko Sodeyama, Hirokazu Tachikawa, Sho Takahashi, Miyuki Aiba, Yayoi Haraguchi, Tetsuaki Arai, The Mental Health of Long-Term Evacuees outside Fukushima Prefecture after the Great East Japan Earthquake, Tohoku University Medical Press, Tohoku Journal of Experimental Medicine, 257/ 3, 261-271, 2022/04/28, DOI1 10.1620/tjem.2022.J038, ISSN 0040-8727

岡田 誠

- ・ Takeshi Hasegawa, Annika Greve, Darren M. Gravley, Chie Kusu, Yasuaki Kaneda, Shohei Shibata, Makoto Okada, Szabolcs Kósik, Nobutatsu Mochizuki and Gillian Turner, Paleomagnetic constraint of the age and duration of the Taupō Eruption, New Zealand, Springer, Earth, Planets and Space, 75/ 23, 2023/02/16, DOI1 10.1186/s40623-023-01779-7

北 和之

- ・ Mizuo Kajino, Akira Watanabe, Masahide Ishizuka, Kazuyuki Kita, Yuji Zaizen, Takeshi Kinase, Rikuya Hirai, Kakeru Konnai, Akane Saya, Kazuki Iwaoka, Yoshitaka Shiroma, Hidenao Hasegawa, Naofumi Akata, Masahiro Hosoda, Shinji Tokonami, and Yasuhito Igarashi, Reassessment of the radiocesium resuspension flux from contaminated ground surfaces in eastern Japan, Atmos. Chem. Phys., 22, 783–803, 2022
- ・ Peng Tang, Kazuyuki Kita, Yasuhito Igarashi, Yukihiko Satou, Koutarou Hatanaka, Kouji Adachi, Takeshi Kinase, Kazuhiko Ninomiya and Atsushi Shinohara, Atmospheric resuspension of insoluble radioactive cesium-bearing particles found in the difficult-to-return area in Fukushima, Progress in Earth and Planetary Science 9(17), 2022

武田 茂樹

- ・ Song, Zequn, Budi Rahmadya, Ran Sun, and Shigeki Takeda, A Feasibility Study on Monitoring Earthquake-Caused Furniture Vibrations Using Radiofrequency Identification Sensor Tags, MDPI sensors, MDPI sensors,

6/ 3279, 2023/03/20, DOI10.3390/s23063279

- Ran Sun, Kouhei Suzuki, Yuri Owada, Shigeki Takeda, Masahiro Umehira, Xiaoyan Wang, Hiroshi Kuroda, A millimeter-wave automotive radar with high angular resolution for identification of closely spaced on-road obstacles, Scientific Reports, 13/ 1, 2023/02, DOI10.1038/s41598-023-30406-4
- Z. Song, B. Rahmadya, R. Sun, and S. Takeda, An RFID-Based Wireless Vibration and Physical-Shock Sensing System Using Edge Processing, IEEE Sensors Journal, 2022/10/01, DOI10.1109/JSEN.2022.3203994
- S. Takeda, and Y. Kuwahara, Experimental Evaluation of the Influence of Small-scale Vegetation in a 24 GHz FMCW, R. Sun, IEEE Transactions on Electronics, Information and Systems, 142/ 8, 857-858, 2022/08/01, DOI10.1541/ieej.142.857

外岡 秀行

- Kazutaka Nagayama, Hideyuki Tonooka, “Prediction of the Area of High Turbidity Water in the Yatsushiro Sea, Japan, Using Machine Learning with Satellite, Meteorological, and Oceanographic Data”, Remote Sensing, 15(6), 1652, 2023/03/18, <https://doi.org/10.3390/rs15061652>
- Naoto Maeda, Hideyuki Tonooka, “Early-Stage Forest Fire Detection from Himawari-8 AHI Images Using a Modified MOD14 Algorithm Combined with Machine Learning”, Sensors, 23(1), 210, 2022/12/25, <https://doi.org/10.3390/s23010210>
- Zhijian Zhao, Hideyuki Tonooka, “Analysis of Permafrost Distribution and Change in the Mid-East Qinghai–Tibetan Plateau during 2012–2021 Using the New TLZ Model”, Remote Sensing, 14(24), 6350, 2022/12/15, <https://doi.org/10.3390/rs14246350>
- Shuhei Hikosaka, Hideyuki Tonooka, “Image-to-Image Subpixel Registration Based on Template Matching of Road Network Extracted by Deep Learning”, Remote Sensing, 14(21), 5360, 2022/10/26, <https://doi.org/10.3390/rs14215360>

横木 裕宗

- 今村航平, 田村誠, 横木裕宗, 日本の沿岸域の海面上昇に対する住宅移転策の費用推計, 土木学会, 土木学会論文集G (環境), 78/ 5, I_359-I_370, 2022/08/31
- 児玉康希, 横木裕宗, 田村誠, 人口・土地利用シナリオに基づく日本沿岸域の海面上昇の社会経済影響評価, 土木学会, 土木学会論文集G (環境), 78/ 5, I_349-I_357, 2022/08/31
- 宮本諄也, 横木裕宗, 日本沿岸域を対象とした海面上昇に対する海岸構造物による適応費用の推計, 土木学会, 土木学会論文集 G (環境), 78/ 5, I_329-I_336, 2022/08/31

内田 晋

- 関礼郎, 柳島宏治, 中川光弘, 内田晋, 食生活改善による生活習慣病予防の可能性 (II) —食物摂取量と脳血管疾患死亡率の事例—, 共生社会システム学会, 共生社会システム研究, 16/ 1, 272-288, 2022/09/17

岡山 毅

- Yuya Mochizuki, Sou Murakami, Takuro Kobayashi, Kanjana Worarad, Yukio Yonezu, Hiroki Umeda, Tsuyoshi Okayama, Eiichi Inoue, Local CO₂ Application within Strawberry Plant Canopy Increased Dry Matter Production and Fruit Yield in Summer and Autumn Culture, Taylor & Francis, International Journal of Fruit Science, 22/ 1, 675-685, 2022/08/10, DOI1 10.1080/15538362.2022.2103063

小松崎 将一

- Qiliang Huang,Zhaowen Mo, MASAKAZU Komatsuzaki, Co-application of molybdenum with phosphorus improves the growth of soybean seedling under shade stress, Springer, Journal of Plant Growth Regulation, 1, 2023/03/27, DOI1 10.1007/s00344-023-10973-6
- Takeshi YASUE, Nozomi SAKAMOTO, Nozomi HIRAYAMA, Masakazu KOMATSUZAKI, Yuriko YAMAKAWA, Hiromi TAKAHASHI, Saori SHIBANUMA, Daisuke KOHARI, Tsuyoshi OKAYAMA, Atsushi TOYODA, Effects of Farming Activity, Including Horticulture and Interaction With Farm Animals, on the Psychological and Physiological Status of Adults With Mental Disorder, Japanese Journal of Human Animal Relations, 64, 49-57, 2023/03/07
- Hashimi, R., Kaneko, N., & Komatsuzaki, M., Impact of no-tillage on soil quality and crop yield in Asia: A meta-analysis, Wiley Online Library, Land Degradation & Development, 1-15, 2022/10, DOI1 10.1002/ldr.4512
- Yingting Gong, Peiran Li, Yong Guo, Hiyori Aso, Qiliang Huang, Hajime Araki, Tomoyasu Nishizawa, Masakazu Komatsuzaki, Long-term no-tillage and rye cover crops affect soil biological indicators on Andosols in a humid, subtropical climate, Wiley Online Library, European Journal of Soil Science, 73/ 5, e13306, 2022/09, DOI1 10.1111/ejss.13306
- Li, P., Gong, Y., Lu, W., Sakagami, N., Mo, Z., & Komatsuzaki, M., Radiocesium distribution caused by tillage inversion affects the soil-to-crop transfer factor and translocation in agroecosystems, Elsevier, Science of The Total Environment, 831, 154897, 2022/06, 10.1016/j.scitotenv.2022.154897
- Hossain, M. Z., Watanabe, S., Okayama, T., & Komatsuzaki, M., Optimization of the year-round mowing schedule of a robotic lawnmower in a Japanese pear orchard, Wiley Online Library, Weed Biology and Management, 22/ 2, 29-36, 2022/04, DOI1 10.1111/wbm.12247

坂上 伸生

- Ebihara A, Sakagami N, Sakoda M, Tago K, Kamijo T, Ohta H, Nishizawa T, A nitrate-transforming bacterial community dominates in the Miscanthus rhizosphere on nitrogen-deficient volcanic deposits of Miyake-jima, Arsyadi A, Guo Y*, Microorganisms, 11, 260, 2023/02, DOI1 10.3390/microorganisms11020260
- Katata G*, Watanabe M, Oikawa S, Takahashi A, Kubota T, Takase Y, Enomoto T, Sakagami N, Suzuki Y, Fukushima K, Ueda M, Evidence of NO_x and O₃ concentration reduction by kudzu (Pueraria lobata) invasion at a Japanese highway, Atmospheric Pollution Research, 14, 101644, 2023/01,DOI1 10.1016/j.apr.2022.101644
- Li P, Gong Y, Lu W, Sakagami N, Mo Z, Komatsuzaki M*, Radiocesium distribution caused by tillage inversion affects the soil-to-crop transfer factor and translocation in agroecosystems, Science of the Total Environment, 831, 154867, 2022/07, DOI1 10.1016/j.scitotenv.2022.154897

七夕 小百合

- Dinar Mindrati Fardhani, Agung Dian Kharisma, Tomoyuki Kobayashi, Nur Akbar Arofatullah, Makoto Yamada, Sayuri Tanabata, Yumi Yokoda, Ani Widiastuti, and Tatsuo Sato, Ultraviolet-B Irradiation Induces Resistance against Powdery Mildew in Cucumber (*Cucumis sativus* L.) through a Different Mechanism Than That of Heat Shock-Induced Resistance, MDPI, *Agronomy*, 12, 3011, 2022/11/29, DOI 10.3390/agronomy12123011
- Junjira Satitmunnaithum, Hikaru Muroi, Rina Ito, Yuki Tashiro, Antonius Febri Hendratmo, Sayuri Tanabata and Tatsuo Sato, Cultivation Conditions Affect the Occurrence of Blossom-end Enlargement in Cucumber, The Japanese Society for Horticultural Science, *The Horticulture Journal*, 91/ 4, 531-540, 2022/08/02, DOI 10.2503/hortj.UTD-380
- Junjira Satitmunnaithum, Hiroaki Kitazawa, Nur Akbar Arofatullah, Ani Widiastuti, Agung Dian Kharisma, Kenji Yamane, Sayuri Tanabata, Tatsuo Sato, Microbial population size and strawberry fruit firmness after drop shock-induced mechanical damage, Elsevier, *Postharvest Biology and Technology*, 192, 112008, 2022/06/14, DOI 10.1016/j.postharvbio.2022.112008

長南 茂

- Mahoko Taguchi, Yong Guo, Tomoyasu Nishizawa, Shigeru Chohnan, Yasuro Kurusu, Complete genome sequence of a psychrophilic bacterium, *Pseudoalteromonas* sp. strain APM04, isolated from the seafloor of the South Mariana Trough, Pacific Ocean, American Society for Microbiology, *Microbiology Resource Announcements*, 11/ 8, e0037422, 2022/08/18, DOI 10.1128/mra.00374-22
- Moena Kaku, Mei Ishidaira, Shusaku Satoh, Miho Ozaki, Daisuke Kohari, Shigeru Chohnan, Fatty acid production by enhanced malonyl-CoA supply in *Escherichia coli*, Springer Nature, *Current Microbiology*, 79, 269, 2022/07/26, DOI 10.1007/s00284-022-02969-4

国際会議論文

小荒井 衛

- Multiple Authorship, ESTIMATING 3D FOREST STRUCTURE USING LIDAR DATA FOR RISK ASSESSMENT OF SLOPE COLLAPSE CONSIDERING ROOT SYSTEM DEVELOPMENT, The International Archives of the Photogrammetry, Remote Sensing and Spatial Information Sciences, International Society for Photogrammetry and Remote sensing 2022/06/09, 10.5194/isprs-archives-XLIII-B3-2022-907-2022

武田 茂樹

- Z. Song, R. Sun, B. Rahmadya and S. Takeda, An RFID-Based Battery-Less Vibration Monitoring System for Electrical Appliances, 2022 International Symposium on Information Technology and Digital Innovation, 6-10, 2022/07, DOI 10.1109/ISITDI55734.2022.9944472

外岡 秀行

(研究論文 (国際会議プロシーディングス))

- Masaru Sasaki, Taro Shibanoki, Hideyuki Tonooka, “Mobile Robot Control Based on Virtual Impedance Force Feedback,” Proc. of the 5th IEEE International Conference on Emerging Smart Computing & Informatics (ESCI 2023), 591, 2023/03
- Masaya Tadokoro, Taro Shibanoki, Hideyuki Tonooka, “A Monitoring System for the Postural Sway Stabilization Based on Tactile Stimulation Near Auricles,” Proc. of 27th International Conference on Information Technology (IT), IEEE, 2023/02
- Shunya Suzuki, Hideyuki Tonooka, “Performance evaluation of pseudo-visible color transformation of satellite thermal infrared images using a generative adversarial network,” Proc. of International Symposium on Remote Sensing 2022 (ISRS 2022), 157-160, 2022/05
- Kazutaka Nagayama, Hideyuki Tonooka, “Prediction of turbidity patterns using satellite images and meteorological information in two estuaries in Japan,” Proc. of International Symposium on Remote Sensing 2022 (ISRS 2022), 153-156, 2022/05

藤芳 明生

- Masashi Hatakeyama and Akio Fujiyoshi, Simulating the Answering Process of Dyslexic Students for Audio Versions of the Common Test for University Admissions, Springer, Proceedings of the 18th International Conference on Computers Helping People with Special Needs (ICCHP 2022), LNCS 13342, 328-334, 2022/07/13, DOI10.1007/978-3-031-08645-8_38

浅木 直美

(ポスター発表)

- Changing of soil hydraulic conductivity in sweet potato field with living mulch, barley *Hordeum vulgare* L. ‘Temairazu’, ASA, CSSA, SSSA INTERNATIONAL ANNUAL MEETING2022/11

学所内報告

添田 仁

(研究論文 (大学, 研究機関紀要))

- 添田仁, 小津久足の文事と徳川光圀－右文の時代の水戸藩－, 五浦美術文化研究所, 五浦論叢, 29, 88-116, 2022/12

(調査報告書)

- 添田仁, 猪岡萌菜, 高村恵美, 高橋陽一, 旅人たちが観た水戸藩 (茨城大学人文社会科学部地域史シンポジウム記録集), 茨城大学人文社会科学部, 2023/01

その他（国内学会発表、口頭発表、論説等）

伊藤 孝

((MISC) 総説・解説 (その他))

- ・ 伊藤孝, 鏡の日本列島 5: 「お国柄」を決めるもうひとつの水, 生環境構築史同人, 生環境構築史, 5, 2022/11/04
- ・ 久森洗希, 伊藤孝, 岩田真, 菅原久誠, 小森次郎, おうちで地学 Vol.2: 著者と語ろう: 『地磁気逆転と「チバニアン」』著者 菅沼悠介氏を招いて, 日本地学教育学会, みんなの地学, 3, 29-33, 2022/07/30, ISSN 2435-6441
- ・ 伊藤孝, 鏡の日本列島 4: 芭蕉と歩く「改造」後の日本列島, 生環境構築史同人, 生環境構築史, 4, 2022/05/06, URL https://hbh.center/04-serial_01/

((MISC) 書評, 文献紹介等)

- ・ 伊藤孝, 書評: 中島淳一 (2018) 「日本列島の下では何が起きているのか: 列島誕生から地震・火山噴火のメカニズムまで」, 講談社ブルーバックス, 295pp., 日本地学教育学会, みんなの地学, 3, 52-52, 2022/07/30, <http://www.age.ac/~chigakuk/minna/bookreview20220322.pdf>

(ポスター発表)

- ・ A Review: Age Determination Methods of Marine Manganese Deposits, 1st WHEEL Seminar (5th IGS“Precambrian World 2023”), 2023/03/05
- ・ 全岩 Sr 同位体組成によるマンガンクラストの燐灰化年代の推定, 日本地球惑星科学連合 2022 年大会, 2022/05/29

郡司 晴元

- ・ 分担執筆, 郡司晴元, 環境コースのカリキュラム (茨城大学 2022 環境報告書), 茨城大学, 2022/09/30

添田 仁

(公開講演, セミナー, チュートリアル, 講習, 講義等)

- ・ 水戸藩の流行り病一文久 2 年 (1862) のはしかとコレラを中心に-, 常陸大宮市史セミナー, 2023/02/18
- ・ 幕末の長崎居留地を生きた日本人—商館の召使と茶製所の日雇を中心に-, 長崎学ネットワーク会議公開学習会, 2022/09/27

西野 由希子

(研究論文 (大学, 研究機関紀要))

- ・ 西野由希子, 中国で制作される「連続ドラマ」—『陳情令』と「古装劇」—, 茨城大学人文社会科学部, 茨城大学人文社会科学部紀要 人文社会科学論集, 2, 63-74, 2023/02, ISSN 2436-8091

(その他)

- ・ いっしょに考えよう! 笑顔のまちづくり, 水戸市民生委員児童委員連合協議会総会, 2022/05/23

野田 真里

(口頭発表 (招待・特別))

- ・ サステナビリティの仏教的アプローチ, 日本学術会議環境学委員会環境思想・環境教育分科会環境教育の思想的アプローチ検討小委員 (第 25 期・第 3 回), 2022/05/20

(論説等)

- ・ 野田真里, 監修, 『鳥羽市・答志島 SDGs フィールドワーク 2022 報告書』, 2023/03
- ・ 野田真里, 「「仙台防災枠組」 SDGs と地域防災」, 『市報行方』 2022 年 4 月号, 2022/04
- ・ 野田真里, 招待, 「文化と持続可能な開発の国際潮流」, 『市報行方』 2022 年 5 月号, 2022/05
- ・ 野田真里, 招待, 「「価値の共有」と持続可能なまちづくり」, 『市報行方』 2022 年 6 月号, 2022/06
- ・ 野田真里, 招待, 「市民参加、地域文化と持続可能な開発」, 『市報行方』 2022 年 7 月号, 2022/07
- ・ 野田真里, 招待, 「世界の人口と SDGs」, 『市報行方』 2022 年 8 月号, 2022/08
- ・ 野田真里, 招待, 「SDGs と平和— 太平洋戦争の激戦地、パラオから」, 『市報行方』 2022 年 9 月号, 2022/09
- ・ 野田真里, 招待, 「コロナ禍が浮き彫りにしたジェンダーの課題と SDGs」, 『市報行方』 2023 年 1 月号, 2023/01
- ・ 野田真里, 招待, 「新型コロナ禍、シーセッション (女性の不況) と SDGs」, 『市報行方』 2023 年 2 月号, 2023/02
- ・ 野田真里 (招待) 「SDGs は生活の質の向上にむけたグローバル目標」, 『広報いしおか』 2023 年 2 月号, 2023/02
- ・ 野田真里, 招待, 「SDGs の三層構造とジェンダー平等」, 『市報行方』 2023 年 3 月号, 2023/03
- ・ 野田真里 (招待) 「SDGs は世界変革を目指す「自分ごと」」, 『広報いしおか』 2023 年 3 月号, 2023/03

岡田 誠

(研究論文 (研究会, シンポジウム資料等))

- ・ 岡田誠, チバニアン GSSP の特徴と、その学術上の意義, 公益財団法人日本学術協力財団, 学術の動向, 27/ 11, 73-77, 2022/11/01, ISSN 1342-3363

(口頭発表 (招待・特別))

- ・ 第四紀更新世における地質年代境界決定の現状, 日本地質学会第 129 年学術大会, 2022/09/05
- ・ チバニアン GSSP の批准とその年代層序学的意義, 日本地質学会第 129 年学術大会, 2022/09/05
- ・ 房総半島の海成鮮新一更新統における古地磁気一同位体複合層序の構築とその意義, 日本第四紀学会 2021 年日本第四紀学会学会賞・学術賞受賞記念 第 2 回講演会, 2022/06/04
- ・ チバニアン GSSP の特徴と、その学術上の意義, 日本学術会議公開シンポジウム「チバニアン、学術的意義とその社会的重要性」, 2022/05/24

(口頭発表 (一般))

- ・ 南房総海成鮮新一更新統の第四系基底部における定方位ボーリングコアの予察的古地磁気研究, 日本地球惑星科学連合 2022 年大会, 2022/05/22

小荒井 衛

((MISC) 総説・解説 (商業誌))

- ・ 小荒井衛, 地図のチカラ 学会への招待 地図から災害リスクを読み解く, GIS NEXT, GIS NEXT, 79, 2022/04/25

(口頭発表 (一般))

- ・ メッシュサイズとデータソースの異なる DEM の地形解析特性について, ポスター発表, 日本地理学会 2023 年春季学術大会, 2023/03/25
- ・ 八ヶ岳大月川流域における大月川岩屑なだれ堆積物の給源と地形発達, ポスター発表, 日本地理学会 2023 年春季学術大会, 2023/03/25
- ・ 研究プロジェクト紹介 シンポジウム・ワークショップ パネル (指名) 国文学研究資料館・茨城大学地球・地域環境共創機構共同セミナー「歴史資料を活用した減災・気候変動適応に向けた文理融合研究の深化」, 2023/02/22
- ・ メッシュサイズとデータソースの異なる DEM により解析した尾根谷密度と地質の関係についての検討, ポスター発表, CSIS DAYS 2022 「全国共同利用研究発表大会」, 2022/11/18
- ・ 片貝断層群を中心とした新潟県小千谷地域の地形変動と地形発達, ポスター発表, CSIS DAYS 2022 「全国共同利用研究発表大会」, 2022/11/18
- ・ 航空レーザデータから水塚 (みずか) の痕跡の抽出は可能か?, ポスター発表, CSIS DAYS 2022 「全国共同利用研究発表大会」, 2022/11/18
- ・ LiDAR データを用いた森林 3 次元構造の推定, ポスター発表, CSIS DAYS 2022 「全国共同利用研究発表大会」, 2022/11/18
- ・ 常時微動計測結果からみる水戸及び霞ヶ浦周辺の谷底平野の地形発達の特徴と地盤災害特性, 口頭発表 (一般), 日本地質学会第 129 年学術大会, 東京・早稲田大会, 2022/09/06
- ・ 新潟県津南町～長野県飯山市における地震被害と地形・地盤特性の関係, ポスター発表, 第 76 回地学団体研究会総会 (長野), 2022/08/20
- ・ 地形分類に基づく地震による地盤災害リスク評価の細分化の検討についてー自然堤防と谷底平野の例ー, 公開講演, セミナー, チュートリアル, 講習, 講義等, 国土地理院地理地殻活動研究センター 談話会, 2022/07/15
- ・ Estimating 3D Forest Structure Using LiDAR Data For Risk Assessment Of Slope Collapse Considering Root System Development, ポスター発表, 第 24 回国際写真測量学会総会
- ・ 八ヶ岳・大月川流域における大月川岩屑なだれ堆積物の給源と地形発達の地形学的・記載岩石学的検討, 日本地球惑星科学連合 2022 年大会, 2022/06/01
- ・ 常時微動観測により推定した宮野原断層周辺の地盤特性と 2011 年長野県北部地震の家屋被害との関係, 日本地球惑星科学連合 2022 年大会, 2022/05/22
- ・ 常時微動計測から推定した東茨城台地内の谷底平野の地形発達と地震時リスク, 日本地球惑星科学連合 2022 年大会, 2022/05/22
- ・ 苗場山頂湿原における植生変遷と地形との関係, 日本地球惑星科学連合 2022 年大会, 2022/05/22
- ・ 航空レーザデータを用いた水塚の抽出手法の検討, (一社) 日本写真測量学会令和 3 年度年次学術講演会, 2022/05/19

(シンポジウム・ワークショップ パネル (指名))

- ・ 歴史的アプローチと理工学的アプローチを組み合わせた防災研究, 国文学研究資料館, 創立 50 周年記念式典, 2022/05/13
- ・ 地図等から読み解く自然環境への人為の影響と災害リスクの変化, シンポジウム・ワークショップ パネル (指名), 日本学術会議公開シンポジウム・第 13 回防災学術連携シンポジウム「自然災害を取り巻く環境はどう変化してきたか」, 2022/05/09

柴田 傑

(口頭発表 (一般))

- ・ 主観と俯瞰視点を変更可能な VR 空間における KML 地理情報の可視化手法の検討, ヒューマンインタフェースシンポジウム 2022, 2022/08/30

武田 茂樹

(口頭発表 (招待・特別))

- ・ IoT systems based on RFID technologies, 2022 International Symposium on Information Technology and Digital Innovation (ISITDI), 2022/07

外岡 秀行

(口頭発表 (一般))

- ・ Mohammadreza Safabakhsh pachehkenari, Hideyuki Tonooka, Fuzzy overlay-based optimization technique for machine learning algorithms to model urban land use change and its application to Moriya City, Ibaraki, Japan, 日本リモートセンシング学会第 73 回学術講演会論文集, pp. 11-12, 2022/11

(ポスター発表)

- ・ 武藤美有希, 外岡秀行, ASTER 時系列 DEM データを用いたインドの開放投棄型埋立地における廃棄物量モニタリング, 日本リモートセンシング学会第 73 回学術講演会論文集, pp. 221-222, 2022/11
- ・ 鈴木隼弥, 外岡秀行, 自然災害監視における衛星熱赤外画像疑似可視カラー変換の有効性評価—2018 年北海道胆振東部地震の事例, 日本リモートセンシング学会第 73 回学術講演会論文集, pp. 223-224, 2022/11
- ・ Xia Hao, 外岡秀行, 深層学習による高空間分解能衛星画像からの堤防抽出, 日本リモートセンシング学会第 73 回学術講演会論文集, pp. 243-244, 2022/11

藤芳 明生

(ポスター発表)

- ・ 読みの力を育てる全校支援システムの構築, 一アセスメントと音声付き教科書の活用を通して—, 日本 LD 学会第 31 回大会, 2022/10/29

横木 裕宗

((MISC) 研究発表要旨 (全国大会, その他学術会議))

- ・ 神白貴章, 横木裕宗, 標高データの解像度が海面上昇による浸水解析結果に及ぼす影響, 土木学会地球環境委員会, 第 30 回地球環境シンポジウム講演集, 29-32, 2022/08/31
(口頭発表 (招待・特別))
- ・ 沿岸都市域の浸水影響評価と適応策, 令和 4 年度 環境研究総合推進費オンラインシンポジウム, 都市と気候変動, 2022/09/24

浅木 直美

(口頭発表)

- ・ 輪作が土壌化学性とサツマイモの収量と品質におよぼす影響, 日本作物学会関東支部第 111 回講演会, 2022/12/02
 - ・ カバークロップ利用が雑草の発生と水稻の生育・収量におよぼす影響, 日本作物学会関東支部第 111 回講演会, 2022/12/02
 - ・ カバークロップと除草機の導入が有機水稻の生育・収量および雑草発生に及ぼす影響, 日本作物学会第 254 回講演会, 2022/09/21
- (ポスター発表)
- ・ 茨城県におけるテンサイの生育と共生菌類の接種による耐暑性付与, 日本土壌微生物学会 2022 年度大会, 2022/06
 - ・ 耕起から不耕起への転換が土壌理化学性に及ぼす影響, 土壌肥料学会 2022 年度関東支部大会, 2022/11/20

内田 晋

(その他)

- ・ 日本の環境研究室 2022, 2022/12/07, <https://www.ses.or.jp/enkaku/kankyo2022/>

岡山 毅

(特許権)

- ・ 動物体の体重推定装置及び体重推定方法, 出願番号 2018-108429, 出願日 2018/10/12, 公開番号 2019-211364, 公開日 2019/12/12, 登録番号 7057971, 登録日 2022/04/13

坂上 伸生

((MISC) その他記事)

- ・ 坂上伸生, <グリーンムーブメント>高速道路法面の植生と土壌の資源価値, 高速道路と自動車, 66/ 3, 10, 2023/03
- ・ 坂上伸生, <グリーンムーブメント>高速道路法面の植生と土壌中の炭素, 高速道路と自動車, 66/ 2, 12, 2023/02
- ・ 坂上伸生, <グリーンムーブメント>高速道路法面に繁茂するクズとの共生を考える, 高速道路と自動車, 66/ 1, 13, 2023/01

(ポスター発表)

- ・ 輪作が土壌化学性とサツマイモの収量と品質におよぼす影響, 日本作物学会関東支部会報, 37, 24 (12月, 千葉), 2022/12
- ・ 駒止湿原開墾跡地における土地改変履歴と土壌性状および植生回復との関係, 2022 年度日本土壌肥料学会関東支部大会 (茨城大会) 講演要旨集, p.19 (11月, 茨城), 2022/11
- ・ 三宅島 2000 年噴火後の植生回復過程における土壌生成と有機物の集積, 2022 年度日本土壌肥料学会関東支部大会 (茨城大会) 講演要旨集, p.18 (11月, 茨城), 2022/11
- ・ 道路緑地における植生管理が法面土壌の化学性および物理性に及ぼす影響について, 2022 年度日本土壌肥料学会関東支部大会 (茨城大会) 講演要旨集, p.18 (11月, 茨城), 2022/11
- ・ 継続的な不耕起農法によって形成される土壌団粒の物質循環系メタゲノム解析, 2022 年度日本土壌肥料学会関東支部大会 (茨城大会) 講演要旨集, p.17 (11月, 茨城), 2022/11
- ・ 茨城県におけるテンサイの生育と共生菌類の接種による耐暑性付与, 日本土壌微生物学会 2022 年度大会講演要旨集, p.35, 2022/06
- ・ 三宅島火山灰堆積物において窒素循環を駆動する微生物群集のメタゲノミクス, 日本土壌微生物学会 2022 年度大会講演要旨集, p.33, 2022/06

七夕 小百合

(ポスター発表)

- ・ ダイズ根粒超着生変異株 NOD 系統の原因遺伝子と表現型の解析, 日本土壌肥料学会関東支部大会 (茨城大会), 2022/11/20

長南 茂

(口頭発表 (一般))

- ・ マロニル-CoA 生合成が改善された大腸菌における脂肪酸蓄積に対する fabR および fadR の効果, 日本農芸化学会 2023 年度大会, 2023/03/15
- ・ マロニル-CoA 生合成を強化した大腸菌での遊離脂肪酸生産, 第 74 回日本生物工学会大会, 2022/10/20
- ・ 強化された CoA 生合成による組換え大腸菌での PHB 生産, 口頭発表 (一般), 日本農芸化学会 2022 年度大会, 2022/03/17

長谷川 守文

(口頭発表 (一般))

- ・ レンコン粉末の麴化によるヌシフェリン産生機構の解明, 園芸学会令和 5 年度春季大会, 2023/03/20
 - ・ ホウレンソウ葉のフラボン型ファイトアレキシン, 日本農芸化学会 2023 年度大会, 2023/03/15
- (ポスター発表)
- ・ 糸状性シアノバクテリア由来フィコシアノペリンの生産開発と特性解析, 第 45 回日本分子生物学会年会, 2022/12/02

(4) 2022 年度の研究会、公開講座、講演会、WS 等の実施

中里 亮治

- ・ R4 年度現代的課題対策講座「やさしく学べる SDG s 親子実践講座」、【実施形態】霞ヶ浦（北浦）の水質測定と水中生物の顕微鏡観察 茨城県鹿行生涯学習センター主催, 2022/10/16, 【対象】親子（小学生）, 【担当者】中里亮治

加納 光樹

- ・ オンライン公開シンポジウム「霞ヶ浦流域研究 2022」, 2022/03/05, 【対象】生徒, 学生, 市民, 研究者

田村 誠

- ・ “Challenges of Ibaraki local climate change adaptation center (iLCCAC)”&“Coastal adaptation mixing gray and green infrastructures to climate change in Vietnam and the World”, 【実施形態】セミナー（2022 年度 JICA 国別研修インドネシア国「気象・気候データ活用能力向上本邦研修（気候変動対策能力強化プロジェクトフェーズ 2）」セミナー）, 2022/12/09
- ・ 日越大学の設立と現状について, 【実施形態】セミナー（外国（ベトナム）人財採用セミナー）, 2022.11.22

西野 由希子

- ・ ユージン・スミスが撮った HITACHI —茨城大学の文学研究者たちが読み解く フォトエッセイの価値—, 【実施形態】講演会, 2022/11/19, 【対象】一般, 【担当者】大森潤也, 君塚淳一, 西野由希子, 鎌田賢

野田 真里

- ・ 持続可能な開発・SDGs の理論と系譜：グローバル化と地域社会の持続可能な発展①, 【実施形態】基調講演（招待）, 2023/02/07-2023/02/07, 【対象】令和 4 年度後期市民大学講座受講者, 【担当】常陸大宮市
- ・ SDGs の注意点と深掘り：グローバル化と地域社会の持続可能な発展②, 【実施形態】基調講演（招待）, 2023/02/14, 【対象】令和 4 年度後期市民大学講座受講者, 【担当】常陸大宮市
- ・ SDGs の 3 つの三層構造と地域社会での実践：グローバル化と地域社会の持続可能な発展③, 【実施形態】基調講演（招待）, 2023/02/21, 【対象】令和 4 年度後期市民大学講座受講者, 【担当】常陸大宮市
- ・ 親子で学ぼう！SDGs ワークショップ, 【実施形態】基調講演・ワークショップ（招待）, 2023/02/19, 【対象】一般, 【担当】石岡市
- ・ Z 世代、探究と SDGs2022, 【実施形態】基調講演（招待）, 2022/09/13, 【対象】茨城県立水戸第三高等学校, 【担当】茨城県立水戸第三高等学校

長南 茂

- ・ 微生物の潜在機能と生物間相互作用, 【実施形態】公開講座, 2022/08/23-2022/08/24, 【対象】高校生, 【担当】西澤智康, 小川恭喜, 上塚浩司, 長南茂

三村 信男

- ・ IPCC 報告書連携シンポジウム: 気候変動の影響はどうか? どう対応する?—IPCC 第6次報告書と日本の研究報告, 【実施形態】オンライン, 2022/04/26, 【対象】一般 (参加人数: 1,176名), 【担当】S-18 プロジェクト (三村信男)
- ・ S-18 セミナー第5回: ビジネスと気候変動適応 ~リスク管理とビジネス機会~, 【実施形態】オンライン, 2022/07/22, 【対象】一般, 【講師】三井物産戦略研究所国際情報部シニア研究フェロー・本郷尚
- ・ S-18 セミナー第6回: 気候変動に役立つ生態系管理 —印旛沼流域での試み—, 【実施形態】オンライン, 2022/11/14, 【対象】一般, 【講師】国立環境研究所・西廣淳
- ・ S-18 セミナー第7回: 発電する地域の林業者: 信州ウッドパワー・信州ウッドチップ: 2023/02/17, 【対象】一般, 【講師】トヨタUグループ・陰山恭男

李 勇昕

- ・ 第41回日本自然災害学会学術講演会: COVID-19時代における被災地復興の取り組み~茨城県大洗町を例に~, 2022/09/18-2022/09/19, 【担当者】李勇昕
- ・ 日本災害復興学会 2022: 復興過程における支援者と被支援者の関係性の変化について—2009年台湾モラコット台風を事例として—, 2022/10/01-2022/10/02, 【担当者】李勇昕, 張亦瑾

(5) 新聞掲載、メディア報道等

加納 光樹

- ・ 2022/05-2023/03 (全6回), 【掲載誌】広報いたこ 連載記事: 潮来市の訪れる自然, 【取材対象者】加納光樹

田村 誠

- ・ 2022/11/08, 【放送局/番組名】NHK/おはよう日本 海面上昇で沈むアジアの島々 (テレビ・ラジオ番組), 【内容】海面上昇影響予測紹介, 【取材対象者】田村誠

西野 由希子

- ・ 2022/12/01, 【掲載誌】茨城新聞, 【内容】写真家ユージン・スミスが60年代に日立市を撮影したフォトエッセーに関する研究報告会, 【取材対象者】西野由希子

原口 弥生

- ・ 2022/04/28, 【掲載誌】茨城新聞, 【内容】いばらきコープ、「ふうあいねっと」に100万円寄付, 【取材対象者】原口弥生
- ・ 2022/05/04, 【掲載誌】東京新聞, 【内容】東海第二原発 再考再稼働, 【取材対象者】原口弥生
- ・ 2023/03/09, 【掲載誌】茨城新聞 東日本大震災12年, 【キーワード】福島避難者 本県が最多, 近接要因 東京と逆転, 【取材対象者】原口弥生
- ・ 2023/03/22, 【掲載誌】茨城新聞 東日本大震災12年, 【キーワード】被災の記憶 どうつなぐ, コロナ禍 風化に拍車, 児童「怖さ実感ない」, 【取材対象者】原口弥生

三村 信男

- ・ 2022/04/05, 【掲載誌】毎日新聞 (東京朝刊), 【内容】そこが聞きたい「気候変動被害のいま」 近づく適応の限界, 【取材対象者】三村信男
- ・ 2022/04, 【掲載誌】雑誌 Consultant 295号, 【内容】気候変動問題の現在と世界の動き, 【取材対象者】三村信男
- ・ 2022/04, 【掲載誌】日経 ESG 2022年5月号, 【内容】「適応の限界」をどう超えるか IPCC 報告書が明らかにした気候変動リスク, 【取材対象者】三村信男
- ・ 2022/07, 【掲載誌】OECC 会報 第95号, 【内容】OECC 第4回 橋本道夫記念シンポジウム基調講演「今後の気候変動対策とウクライナ危機」, 【取材対象者】三村信男

安原 一哉

- ・ 【内容】常総水害7年 識者の見方, 【取材対象者】安原一哉

(6) 受賞、開発実績等

藤田 昌史

- ・ 土木学会関東支部技術研究発表会優秀発表者賞，【受賞者】オウス謙治（理工学研究科博士前期課程 都市システム工学専攻，指導教員：藤田昌史），2023/03

中里 亮治

- ・ 第 24 回「環境放射能」研究会奨励賞，【受賞者】小川侑真（理工学研究科博士前期課程理学専攻，指導教員：中里亮治），2023/03/07，【授与団体】高エネルギー加速器研究機構放射線科学センター 日本放射化学会 α 放射体・環境放射能分科会，【題目】帰還困難区域の溪流・森林環境中に生息する無脊椎動物の放射性セシウム濃度について

田村 誠

- ・ 令和 3 年度土木学会論文賞，【受賞者】田村誠，2022./06/10，【授与団体】土木学会，【題目】Estimating the cost of coastal adaptation using mangrove forests against sea level rise

増永 英治

- ・ 2022 年度日本海洋学会岡田賞，【受賞者】増永英治，2022/09/05，【授与団体】日本海洋学会，【題目】沿岸域における潮汐と黒潮に起因する混合過程及び水理環境に関する研究

横木 裕宗

- ・ 令和 3 年度土木学会論文賞，【受賞者】横木裕宗，2022/06/10，【授与団体】土木学会，【題目】Estimating the cost of coastal adaptation using mangrove forests against sea level rise

西澤 智康

- ・ 優秀ポスター賞，【受賞者】浦本匠（指導教員：西澤智康），2022/11，【授与団体】2022 年度日本土壌肥料学会関東支部大会（茨城大会），【題目】継続的な不耕起農法によって形成される土壌団粒の物質循環系メタゲノム解析

三村 信男

- ・ 港湾特別功労賞，【受賞者】三村信男，2022/10/26，【授与団体】日本港湾協会

(7) 国際交流

7. 1 外国人受入

伊藤 哲司

- ・ 白迎春, 【国籍】モンゴル, 【所属機関】内蒙古民族大学, 准教授, 【研究テーマ】中日環境公益訴訟制度比較研究, 【受入教員】伊藤哲司(人文社会科学部), 2022/10-2023/11

7. 2 国内在住者受入

なし

(8) 教育活動

8. 1 講義 (学部・大学院/学内講義のみ)

専任教員・研究員

氏名	開講部局名	学科・専攻	授業名	開講期
藤田 昌史	工学部	都市システム工学科	地球環境工学 (横木・藤田)	後期
	工学部	都市システム工学科	上下水道工学	前期
	工学部	都市システム工学科	水環境学	後期
	工学部	都市システム工学科	都市システム工学序論 (桑原・車谷・原田・信岡・平田・熊澤・小林・辻村・横木・藤田・山田・吉田・加藤)	前期
	工学部	都市システム工学科	社会基盤工学基礎演習II (榎本・車谷・横木・金・藤田)	後期
	工学部	都市システム工学科	都市システム工学実験II (榎本・信岡・小林・横木・藤田)	後期
	共通教育		霞ヶ浦と流域活動 (黒田・山口・藤田・福島・中島・鈴木)	3Q
	理工学研究科		水質工学特論	2Q
	理工学研究科		水環境システム工学特論	通年
	中里 亮治	共通教育		霞ヶ浦の自然 (岡田・中里・加納・山口)
理学部			陸水生物学	前期
理学部			生物科学トピックス II (立花・中里・加納・中村・二橋・横谷・小林)	後期
理学部			陸水環境科学実習	前期
理工学研究科			陸水生物環境学	前期
理工学研究科			陸水生物環境学演習	前期
加納 光樹	共通教育		霞ヶ浦の自然 (岡田・中里・加納・山口)	4Q
	理学部		陸水環境科学実習 (中里・加納・碓井)	前期
	理学部		生物学安全実験法 (及川・加納・諸岡・野田)	前期
	理学部		生物科学トピックス II (立花・中里・加納・中村・二橋・横谷・小林)	後期

	理工学研究科		魚類学	前期
	理工学研究科		魚類学演習	前期
田村 誠	共通教育		サステナビリティ学入門（小寺・伊藤・阿部・三村・田村・藤田・野田・森下）	前期集中
	人文社会科学部		環境・経済・社会	後期
	共通教育		環境変動適応・防災論（田村・坂上・Ling・小寺・石川）	後期集中
	大学院共通		サステナビリティ学最前線（田村・小寺・森下）	前期集中
	大学院共通		持続社会システム論Ⅰ（田村・小寺）	1Q
	大学院共通		国内実践教育演習（伊藤・石島・阿部・田村・小寺）	前期集中
山口 直文	共通教育		霞ヶ浦の自然（岡田・中里・加納・山口）	4Q
	共通教育		霞ヶ浦と流域活動（黒田・山口・藤田・福島・中島・鈴木）	3Q
	理学部		地球環境科学研究ⅠB	前期
	理学部		地球環境科学研究Ⅱ	4Q
	理学部		地球環境科学演習Ⅰ	前期
	理学部		地球環境科学演習Ⅱ	後期
	理学部		学際理学入門（山口・理学部教員）	前期
	理工学研究科		堆積侵食ダイナミクスⅠ	前期
小寺 昭彦	共通教育		サステナビリティ学入門（小寺・伊藤・阿部・三村・田村・藤田・野田・森下）	前期集中
	大学院共通		持続社会システム論Ⅰ（田村・小寺）	1Q
	共通教育		環境変動適応・防災論（田村・坂上・Ling・小寺・石川）	後期集中
	大学院共通		サステナビリティ学最前線（田村・小寺・森下）	前期集中
石川 由紀	共通教育		環境変動適応・防災論（田村・坂上・Ling・小寺・石川）	後期集中

兼務教員

戸嶋 浩明

- ・ 基礎有機化学
- ・ 天然物有機化学
- ・ 化学実験
- ・ 化学 I
- ・ 天然物化学特論

蓮井 誠一郎

- ・ 国際学・地理学入門
- ・ 国際学調査法
- ・ メジャー専門ゼミ（国際政治学） I
- ・ 課題研究演習 I
- ・ 国際政治学研究 I
- ・ 持続社会システム論 I
- ・ メジャー専門ゼミ（国際政治学） III
- ・ 国際学概論
- ・ 平和学
- ・ メジャー専門ゼミ（国際政治学） II
- ・ メジャー専門ゼミ（国際政治学） IV
- ・ 地域研究・社会学基盤演習
- ・ 課題研究演習 II
- ・ 社会調査演習 I

伊藤 哲司

- ・ サステイナビリティ学入門
- ・ 人間システム基礎論 I

添田 仁

- ・ ヒューマニティーズ（歴史学）
- ・ 日本史概論，ユーラシア世界と日本の歴史
- ・ 文化遺産実践演習
- ・ 歴史文化遺産実習
- ・ 日本近世史 I・II
- ・ 日本近世史史料講読演習 I～IV
- ・ メジャー専門ゼミナール（日本近世史）
- ・ 楽しい博物館
- ・ 情報メディアと博物館

- ・ 博物館実習I
- ・ 博物館実習II
- ・ 持続可能なコミュニティデザイン論
- ・ 日本近世史研究I
- ・ 日本近世史研究II
- ・ 日本政治史研究I
- ・ 日本政治史研究II

野田 真里

- ・ 国際開発学
- ・ メジャー専門ゼミナールI
- ・ メジャー専門ゼミナールIII
- ・ グローバル化と地域開発研究
- ・ Advanced English IIIC: Globalization and Global Issues
- ・ 国際学概論
- ・ 国際学調査法
- ・ 人間の安全保障
- ・ メジャー専門ゼミナールII
- ・ メジャー専門ゼミナールIV
- ・ 持続可能な開発と SDGs 研究
- ・ 国際学・地理学入門
- ・ Studies in Particular Fields: Gender and Development for SDGs, Reading and Discussion: Development Economics for SDGs
- ・ 卒業研究

原口 弥生

- ・ 環境社会学ゼミナールI
- ・ 環境社会学ゼミナールIII
- ・ 持続可能なコミュニティデザイン論
- ・ 環境社会学研究
- ・ 環境社会学ゼミナールII
- ・ 環境社会学ゼミナールIV

岡田 誠

- ・ 古海洋学
- ・ 地質学実験
- ・ 古地磁気学
- ・ 構造地質学

- ・ 基礎地球惑星科学II
- ・ 地質調査基礎演習
- ・ 地質調査発展演習
- ・ 地球科学巡検III
- ・ 地球環境システム論II
- ・ 霞ヶ浦の自然

小荒井 衛

- ・ 防災地質学
- ・ 環境リスクマネジメント論
- ・ 測地学
- ・ 地球科学巡検III
- ・ 科学と倫理 A（技術者倫理の視点から）
- ・ 地球環境科学研究IA
- ・ 地球環境科学研究II
- ・ 人間環境と災害リスク
- ・ 地質学II
- ・ 地質学実験
- ・ 大学入門ゼミ
- ・ 地質調査発展演習
- ・ 地質調査基礎演習
- ・ 地球環境科学演習I
- ・ 地球環境科学演習II
- ・ 地質学・岩石鉱物学特別演習I
- ・ 地質学・岩石鉱物学特別演習II
- ・ 地質学・岩石鉱物学特別演習III
- ・ 地質学・岩石鉱物学特別演習IV
- ・ 学際理学入門
- ・ 卒業研究
- ・ 地球環境科学特別研究I
- ・ 地球環境科学特別研究II

若月 泰孝

- ・ 大気環境の科学II
- ・ 地球情報処理実習
- ・ 地球環境科学演習I
- ・ 基礎地球惑星科学I
- ・ 地球環境科学研究IB

- ・ 気象学特論II
- ・ 地球物理学特別演習I
- ・ 地球環境科学特別研究I
- ・ 大気環境の科学I
- ・ 地球環境科学入門I
- ・ 地球環境科学演習II
- ・ 地球環境科学入門II
- ・ 地球物理学特別演習II
- ・ 地球環境科学特別研究II
- ・ 地球科学巡検II
- ・ 卒業研究
- ・ 身近な事例から最新の地域防災を考えるI
- ・ 身近な事例から最新の地域防災を考えるII
- ・ 地球環境科学特論II
- ・ 地球環境科学基礎演習
- ・ 地球環境科学研究II

武田 茂樹

- ・ 電波工学

外岡 秀行

- ・ ソフトウェア基礎
- ・ プログラミング演習 III
- ・ 情報ネットワーク
- ・ 情報工学研究実践
- ・ 画像処理
- ・ 地域・地球環境データで観る茨城の姿
- ・ グローバル情報処理特論
- ・ 知的リモートセンシング特論

横木 裕宗

- ・ 都市システム工学序論
- ・ 水理学 II
- ・ 多変数の微積分学
- ・ 河川・水文学
- ・ 地球環境システム論 I
- ・ 沿岸環境形成工学特論

浅木 直美

- ・ 栽培学
- ・ 工芸飼料作物学
- ・ 生物学実験
- ・ 地域総合農学入門
- ・ アジア農業論
- ・ Asian Agriculture
- ・ 栽培学特論

内田 晋

- ・ 環境経済学
- ・ 経済学
- ・ 農業経済学一般
- ・ 地域総合農学入門
- ・ 農業経済学
- ・ 経済・経営
- ・ 環境経済学特論
- ・ 持続社会システム論II

岡山 毅

- ・ AI・数理・データサイエンス演習
- ・ 生物生産機械学
- ・ プログラミング基礎
- ・ AI・データサイエンス入門

小松崎 将一

- ・ 生物資源環境学
- ・ 地域環境科学特別研究
- ・ 地域環境工学特別演習
- ・ 地域環境科学プレゼンテーション演習
- ・ 農業安全管理実習
- ・ 農業安全管理実習
- ・ 環境共生農学特論
- ・ 環境共生論
- ・ 環境・政策系科目
- ・ 持続的農業システム管理学特論
- ・ 持続的農業システム管理学
- ・ 生物生産機械学実験

- ・ ゼミナール（基礎）
- ・ 地域サステナビリティ農学概論
- ・ 農業生産システム学
- ・ 農業生産システム学実験実習
- ・ 外書講読
- ・ 卒業論文
- ・ 地域環境科学特別研究
- ・ 農学実習
- ・ 農学実習
- ・ 農牧場一般実習 I
- ・ プレゼンテーションゼミ
- ・ 農牧場専門実習（持続的農業）
- ・ 地域環境科学プレゼンテーション演習
- ・ 地域環境工学特別演習

坂上 伸生

- ・ 熱帯農学特論
- ・ 熱帯農業フィールド実習
- ・ アジア農業論
- ・ Asian Agriculture
- ・ 土壌環境科学特論
- ・ 大学入門ゼミ
- ・ 食生命科学入門
- ・ 微生物と人間社会
- ・ 国際食産業科学海外講義 I~XI
- ・ Environmental Conservation Agriculture
- ・ Environmental and Symbiotic Sciences
- ・ Field Experimental Works
- ・ Seminar on Regional Sustainability Science
- ・ Lab Works in Regional Sustainability Science

長南 茂

- ・ 食品微生物学
- ・ 食品化学
- ・ 化学I
- ・ 食生命科学入門
- ・ 食品学実験I
- ・ 食品学実験II

- ・ 化学実験
- ・ 技術と社会・微生物と人間社会
- ・ 食生命科学演習
- ・ ゼミナール
- ・ 卒業論文
- ・ 食品微生物利用学特論
- ・ Food of Science
- ・ 科学リテラシー

長谷川 守文

- ・ 一般化学 II
- ・ 食生命科学入門
- ・ 機器分析実験
- ・ 化学 I
- ・ 生物制御化学特論
- ・ 科学リテラシー
- ・ 植物代謝機能学

野口 宏

- ・ 情報リテラシー
- ・ 確率・統計
- ・ 情報工学実験
- ・ 情報経済学
- ・ データ解析論
- ・ 情報工学研究実践

8. 2 講義（フィールドステーション・サステナ関連講義のみ）

専任教員・研究員

氏名	開講部局名	学科・ 専攻	授業名	開講期
中里 亮治			公開臨湖実習 1	前期
			公開臨湖実習 4	前期
			公開臨湖実習 5	前期
加納 光樹			公開臨湖実習 1	前期
			公開臨湖実習 2	前期
田村 誠	日越大学気候変動・ 開発プログラム		Economics of climate change	4 月
	日越大学気候変動・ 開発プログラム		Academic English II	5-6 月
	日越大学気候変動・ 開発プログラム		Academic research on climate change	10 月
	日越大学気候変動・ 開発プログラム		Hands-on Training and Interdisciplinary Fieldwork on Climate Change	10 月
	日越大学気候変動・ 開発プログラム		Development and sustainable development in the context of climate change	10 月
	日越大学気候変動・ 開発プログラム		Climate change mitigation and adaptation	11 月
山口 直文			公開臨湖実習 1	前期
			公開臨湖実習 3	前期
小寺 昭彦	日越大学気候変動・ 開発プログラム		Geo-informatics and Data Analysis for Climate Change Response / Land Use Planning for Climate Change Response	
	日越大学気候変動・ 開発プログラム		Development and sustainable development in the context of climate change	
三村 信男			サステナビリティ学入門（小寺・伊藤・阿 部・三村・田村・藤田・野田・森下）	2022.07.02
石川 由紀	日越大学気候変動・ 開発プログラム		Academic English I	9-10 月
	日越大学気候変動・ 開発プログラム		Hands-on Training and Interdisciplinary Fieldwork on Climate Change	10 月
	日越大学気候変動・ 開発プログラム		Development and sustainable development in the context of climate change	11-2 月
	日越大学気候変動・		Fundamental of Climate Change II	12 月

	開発プログラム			
--	---------	--	--	--

兼務教員

郡司 晴元

- ・ 人間システム基礎論II

伊藤 哲司

- ・ 国内実践教育演習

野田 真里

- ・ サステイナビリティ学入門

8. 3 学位取得者

8. 3. 1 博士

なし

8. 3. 2 修士

戸嶋 浩明

- ・ 矢吹立花（農学研究科）, Andrographolide 系天然物の合成研究, 修士（農学）, 【指導教員】戸嶋浩明

藤田 昌史

- ・ オウス謙治（理工学研究科都市システム工学専攻）, 機械学習を用いた久慈川における塩水遡上の予測と影響要因の評価, 修士（工学）, 【指導教員】藤田昌史
- ・ 三浦七海（理工学研究科都市システム工学専攻）, 汽水性二枚貝ヤマトシジミの開閉運動と成長力に及ぼす環境ストレスの影響, 修士（工学）, 【指導教員】藤田昌史

中里 亮治

- ・ 近藤陸人（理工学研究科理学専攻）, 溪流魚体内の放射性セシウム濃度のインサイト測定システムを利用した帰還困難区域の森林小河川に生息する溪流魚のセシウム蓄積速度と移行メカニズムに関する研究, 修士（理学）, 【指導教員】中里亮治
- ・ 榎井優志（理工学研究科理学専攻）, 帰還困難区域の山地溪流環境における放射性セシウム濃度の推移について, 修士（理学）, 【指導教員】中里亮治

加納 光樹

- ・ 渡邊美如々（理工学研究科理学専攻）, 霞ヶ浦流入河川「桜川」における国内外来種スゴモロコの生活史特性, 修士（理学）, 【指導教員】加納光樹
- ・ 柏谷翔大（理工学研究科理学専攻）, 汽水湖沼の流入河川における絶滅危惧種ウツセミカジカの稚魚の食性と生息環境特性, 修士（理学）, 【指導教員】加納光樹
- ・ 浜野隼（理工学研究科理学専攻）, 北浦流域の農業水路における魚類の出現パターンと生息環境特性, 修士（理学）, 【指導教員】加納光樹
- ・ 浅野泰樹（理工学研究科理学専攻）, 霞ヶ浦のヨシ帯と砂浜における魚類群集構造の比較, 修士（理学）, 【指導教員】加納光樹
- ・ 水木裕翼（理工学研究科理学専攻）, 砂浜海岸の沖側の沿岸砂底域における底生魚類群集の餌利用パターンと季節変動, 修士（理学）, 【指導教員】加納光樹

増永 英治

- ・ 到津春樹（理工学研究科都市システム工学専攻）, 長期モニタリングデータを用いた東京湾奥部の物理構造と混合状態の評価, 修士（工学）, 【指導教員】増永英治
- ・ 佐藤和貴（理工学研究科都市システム工学専攻）, 霞ヶ浦における混合状態に対する湖沼地形の影響に関する研究, 修士（工学）, 【指導教員】増永英治

- ・ 到津春樹（理工学研究科都市システム工学専攻），数値実験を用いた構造物による海洋物理環境への影響評価，修士（工学），【指導教員】増永英治

小荒井 衛

- ・ 小柴理人（理工学研究科理学専攻），八ヶ岳大月川流域の山体崩壊に伴う地形発達史の研究，修士（理学），【指導教員】小荒井衛
- ・ 村山いであ（理工学研究科理学専攻），航空レーザ測量データから得られる森林三次元情報を活用した花崗岩地域における斜面崩壊リスク評価手法の検討，修士（理学），【指導教員】小荒井衛
- ・ 渡辺啓太（理工学研究科理学専攻），八溝山地中部における堆積岩風化・地形と根系発達の関係と航空レーザ測量データによる森林三次元構造把握の高精度化の検討，修士（理学），【指導教員】小荒井衛

藤芳 明生

- ・ 宮部恭兵（工学部情報工学専攻），文字列シーケンス最短マッチング問題，修士（工学），【指導教員】藤芳明生
- ・ 三村廉（工学部情報工学専攻），正規表現で拡張されたグラフ線形表記，修士（工学），【指導教員】藤芳明生
- ・ 中村駿介（工学部情報工学専攻），PDF ファイルからの情報抽出手法と簡単に操作できるツール群の開発，修士（工学），【指導教員】藤芳明生

内田 晋

- ・ 賈奕真（農学研究科），環境保全型農業による地域経済への波及効果，修士（農学），【指導教員】内田晋
- ・ 史華民（農学研究科），営農型太陽光発電を活用した農業経営における意思決定，修士（農学），【指導教員】内田晋

長南 茂

- ・ 工藤大嵩（農学研究科），コエンザイム A 生合成経路を強化した大腸菌によるポリヒドロキシ酪酸生産に関する研究，修士（農学），【指導教員】長南茂
- ・ 中川満美子（農学研究科），マロニル-CoA 生合成が改善された大腸菌における脂肪酸蓄積に対する *fabR* および *fadR* の効果，修士（農学），【指導教員】長南茂
- ・ 濱田美志（農学研究科），大腸菌のマロニル-CoA 増産株を用いた遊離脂肪酸生産に関する研究，修士（農学），【指導教員】長南茂

8. 3. 3 学士

藤田 昌史

- ・ 岡本寛大（工学部都市システム工学科），全国都道府県における水環境・水資源の現況と気候変動適応策の評価，学士（工学），【指導教員】藤田昌史
- ・ 小原大征（工学部都市システム工学科），嫌気好気回分式活性汚泥運転における生物学的リン除去の不安定性，学士（工学），【指導教員】藤田昌史
- ・ 中村陵祐（工学部都市システム工学科），久慈川における過去 27 年間の塩水遡上距離の推移とその影響要因，学士（工学），【指導教員】藤田昌史
- ・ 早川圭亮（工学部都市システム工学科），高濃度二酸化炭素を用いた汽水性二枚貝ヤマトシジミの石灰化の促進，学士（工学），【指導教員】藤田昌史

中里 亮治

- ・ 山本昂成（理学部理学科），帰還困難区域の山地溪流における藻類の放射性セシウム濃度の季節変化，学士（理学），【指導教員】中里亮治

加納 光樹

- ・ 曲子昇（理学部理学科），北浦のヨシ帯の経年的な縮小が魚類群集に及ぼす影響，学士（理学），【指導教員】加納光樹
- ・ 小原迪（理学部理学科），北浦の流入河川における流下仔魚の季節的出現，学士（理学），【指導教員】加納光樹
- ・ 大埜登輝（理学部理学科），霞ヶ浦流入河川の桜川における国外外来種ダントウボウの食性，学士（理学），【指導教員】加納光樹

増永 英治

- ・ 佐近淳平（工学部都市システム工学科），高解像度数値モデルを用いた東日本南岸海域の物質輸送過程の評価，学士（工学），【指導教員】増永英治
- ・ 吉田壮汰（工学部都市システム工学科），霞ヶ浦における多地点流況モニタリングデータの解析，学士（工学），【指導教員】増永英治

野田 真里

- ・ 飯泉海人（人文社会科学部現代社会学科），茨城県行方市での障害と開発～障害者雇用におけるアプローチ～，学士（現代社会学），【指導教員】野田真里
- ・ 櫻井萌々花（人文社会科学部現代社会学科），相対的貧困世帯における子どもの精神的健康—子どもの発達心理を通して—，学士（現代社会学），【指導教員】野田真里
- ・ 仙波陽依（人文社会科学部現代社会学科），企業の SDGs 達成に向けた取り組みと課題—グローバル企業と地方中小企業を事例に—，学士（現代社会学），【指導教員】野田真里
- ・ 野口美季（人文社会科学部現代社会学科），観光業における「おもてなし」の再考と再興—ホスピタリティから学ぶ—，学士（現代社会学），【指導教員】野田真里

- ・ 村越水（人文社会科学部現代社会学科），日本の高齢者福祉—福祉レジーム論から—，学士（現代社会学），【指導教員】野田真里

小荒井 衛

- ・ 金子朋紀（理学部理学科地球環境科学コース），2011年福島県浜通りの地震で出現した塩ノ平断層の痕跡についての調査・研究，学士（理学），【指導教員】小荒井衛
- ・ 中野早登（理学部理学科地球環境科学コース），常時微動計測に基づく霞ヶ浦に流れる河川を対象とした沖積低地の地形発達と地盤災害リスクの検討，学士（理学），【指導教員】小荒井衛
- ・ 米田夕夏（理学部理学科地球環境科学コース），歴史資料を用いて復元した埼玉県行田市周辺地域の近世以降の洪水における洪水氾濫特性と地形との関係，学士（理学），【指導教員】小荒井衛
- ・ 寺崎修平（理学部理科学際理学コース），鬼怒川・小貝川低地（新石下・東野原地区）のボーリング試料と常時微動計測の対比による堆積環境変遷の検討，学士（理学），【指導教員】小荒井衛
- ・ 伊藤正貴（理学部理学科地球環境科学コース），東北地方太平洋沖地震による仙台平野の津波被害における砂州・砂堆及び人工地形の影響，学士（理学），【指導教員】小荒井衛

藤芳 明生

- ・ 浅野光紀（情報工学科），欧文フォントの文字間隔を自動調節する PDF のフォント入れ替えソフトの開発，学士（工学），【指導教員】藤芳明生
- ・ 工藤和真（情報工学科），可読性を向上させるための PDF 加工プログラムの開発，学士（工学），【指導教員】藤芳明生
- ・ 西野裕樹（情報工学科），大学入学共通テストの音声だけによる出題方法の提案，学士（工学），【指導教員】藤芳明生
- ・ 伊野仁崇（情報工学科），正規表現拡張 SMILES の短縮形を用いた化学構造検索，学士（工学），【指導教員】藤芳明生
- ・ 作山桃夏（情報工学科），PDF ファイルを EPUB3 Media Overlays に変換するソフトウェアの開発，学士（工学），【指導教員】藤芳明生

内田 晋

- ・ 五十嵐光花（農学部），日本における熱帯・亜熱帯果樹栽培可能性の検討，学士（農学），【指導教員】内田晋
- ・ 畑友賀（農学部），圃場リモートセンシングを用いた米と小麦の経済的評価，学士（農学），【指導教員】内田晋

長南 茂

- ・ 佐藤大介（農学部），*Cupriavidus nacator* の PHB 生産における CoA 生合成経路強化の有効性，学士（農学），【指導教員】長南茂
- ・ 田中真大（農学部），*fadR* が大腸菌のマロニル-CoA 増産株による脂肪酸生産に及ぼす影響，学士（農学），【指導教員】長南茂

- ・ 藤井隆斗（農学部）、シアノバクテリアのマロニル-CoA 増産株による脂肪酸生産, 学士（農学）, 【指導教員】長南茂
- ・ 山城幸喜（農学部）、大腸菌のマロニル-CoA 増産株を用いた高度不飽和脂肪酸生産, 学士（農学）, 【指導教員】長南茂

長谷川 守文

- ・ 村田悠夏（農学部食生命科学科）、ハウレンソウ葉からのフラボン型ファイトアレキシンの同定, 学士（農学）, 【指導教員】長谷川守文

(9) 社会貢献（生涯学習、外部委員（学会や役所など）、社会連携）

9. 1 社会貢献

蓮井 誠一郎

- ・ 日本平和学会編『平和学事典』編集委員（第6・7章担当）, 2021.04.18-現在

藤田 昌史

- ・ 土木学会地球環境委員会 委員
- ・ 土木学会環境・資源編集小委員会（71小委員会）幹事
- ・ 日本下水道協会下水道協会誌論文審査委員会 委員
- ・ 国土交通省関東地方整備局久慈川河川整備計画有識者会議 委員
- ・ 国土交通省関東地方整備局久慈川水系河川整備計画フォローアップ委員会 委員
- ・ 国土交通省関東地方整備局那珂川河川整備計画有識者会議委員
- ・ 国土交通省関東地方整備局那珂川水系河川整備計画フォローアップ委員会 委員
- ・ 日本下水道新技術機構建設技術（下水道）審査証明委員会 委員
- ・ 日本下水道新技術機構第四審査証明委員会 副委員長
- ・ 茨城県下水道事業経営懇談会 委員長
- ・ 茨城県経営懇談会 委員長
- ・ 茨城県環境影響評価審査会 副委員長
- ・ 茨城県廃棄物処理施設設置等専門委員会 委員
- ・ 茨城県水質保全協会 理事
- ・ 茨城県水質保全協会法定検査運営委員会 副委員長
- ・ 茨城県水質保全協会新11条検査審査会 委員長
- ・ 茨城県環境保全事業団エコフロンティアかさま環境保全委員会 委員
- ・ 日立市上下水道事業経営審議会 委員長
- ・ 大洗町水道料金審議会 委員長

中里 亮治

- ・ 茨城県霞ヶ浦環境科学センター客員 研究員

加納 光樹

- ・ 国交省河川水辺の国勢調査「河川版・ダム版」スクリーニング委員会 委員
- ・ 国土交通省北浦水質改善計画検討会 委員
- ・ 環境省モニタリングサイト1000陸水域調査淡水魚類ワーキング 委員
- ・ 環境省絶滅のおそれのある海洋生物の選定・評価検討会魚類分科会 委員
- ・ 環境省自然環境保全基礎調査淡水魚類分布調査検討会 委員
- ・ 環境省霞ヶ浦における底層溶存酸素量類型指定検討会 委員
- ・ 環境省希少野生動植物種保存推進員
- ・ 茨城県水産試験場機関 評価委員

- ・ 霞ヶ浦北浦海区漁業調整委員会 委員
- ・ ミュージアムパーク茨城県自然博物館助言者会議 助言者
- ・ 茨城県自然博物館総合調査（茨城県動物調査会）魚類分科会長
- ・ 茨城における外来種対策検討委員会 委員
- ・ 東邦大学理学部東京湾生態系研究センター 研究員
- ・ 茨城県鹿行生涯学習センター「やさしく学べる SDGs 親子実践講座」講師

田村 誠

- ・ 2022 年度茨城県環境基本計画策定小委員会委員
- ・ 2021-2022 年度茨城県環境審議会委員
- ・ 茨城県地域気候変動適応センター 運営委員(副センター長)
- ・ 2020-22 年度環境省「地域の気候変動適応推進のためのタスクフォース」委員
- ・ 令和 3 年度環境省東メコン 3 国における気候変動適応政策意思決定ツール開発と利用促進業務プロトタイプ検討会 委員

増永 英治

- ・ 日本沿岸域学会論文編集 委員
- ・ Asia Oceania Geophysical Union, Ocean Science Section, Secretary
- ・ 国土交通省北浦水質改善計画検討会 委員
- ・ 神戸大学複雑熱流体工学研究センター 学外協力教員

山口 直文

- ・ 令和 4 年度指定事業現代的課題対策講座「歩いて感じる霞ヶ浦の過去と現在」講師
- ・ 堆積学スクール 2022「現世干潟の堆積過程」講師
- ・ 日本堆積学会 行事委員長
- ・ 日本堆積学会 運営委員

伊藤 孝

- ・ 日本地学教育学会 副会長
- ・ 日本地学教育学会 常務委員
- ・ 日本地学教育学会 評議員

伊藤 哲司

- ・ 小学校 SDGs 教室
- ・ 小学校防災教室オンライン
- ・ 小学校防災教室
- ・ 被災体験語りあいワークショップ（太子プロジェクト）
- ・ 日本質的心理学会 常任理事

- ・水戸地方裁判所 水戸地方裁判所委員会委員
- ・日本エスぺラント協会 評議員
- ・茨城県水戸生涯学習センター 運営協議会会長

添田 仁

- ・水戸市 水戸市歴史的風致維持向上計画協議会 副会長
- ・水戸市 水戸市立博物館協議会 委員
- ・常陸大宮市 市史編さん委員会委員（近世史部会長）
- ・笠間市 笠間城跡調査指導委員会委員
- ・龍ヶ崎市 文化財保護審議会委員
- ・茨城地方史研究会理事
- ・茨城文化財・歴史資料保全・活用ネットワーク（茨城史料ネット）事務局長

西野 由希子

- ・茨城県公益認定等審議会
- ・常陸大宮市市史編さん審議会
- ・常陸大宮市協働のまちづくり委員会
- ・つくば市マスタープラン策定委員会 委員
- ・つくば市 R8 有識者
- ・茨城県芸術祭文学部門 審査委員
- ・茨城県高等学校文化連盟文芸中央大会 審査委員
- ・茨城県立小瀬高校学校 評議員

野田 真里

- ・茨城県立水戸第三高等学校 令和3年度総合的な探究の時間アドバイザー
- ・日本学術会議 環境学委員会環境思想・環境教育分科会環境教育の思想的アプローチ検討小委員会
- ・行方市 未来のまちづくり協議会 委員
- ・株式会社テラ・ラボ 顧問
- ・国際開発学会「開発のレジリエンスとSDGs」研究部会 副代表
- ・行方市 SDGs 推進アドバイザー
- ・持続可能な開発・SDGs みえ 副代表
- ・一般財団法人自治体国際化協会(CLAIR) 地域国際化推進アドバイザー

原口 弥生

- ・一般社団法人ふうあいねっと（代表理事）
- ・茨城県 茨城県地方港湾審議会委員
- ・社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会 はんどちゃん運動推進委員会
- ・国立研究開発法人国立環境研究所 国立研究開発法人国立環境研究所外部研究評価委員会委員

- ・ 茨城県 女性活躍・県民協働課男女共同参画センター 男女共同参画アドバイザー
- ・ 環境社会学会 ・理事 環境社会学会理事会
- ・ 常陸太田市 常陸太田市環境審議会委員
- ・ 茨城県 茨城県男女共同参画苦情・意見処理委員会
- ・ 水戸市 水戸市環境審議会委員（委員長）
- ・ 水戸市 総合企画審議会委員
- ・ 茨城県東海村 東海村原子力安全対策懇談会委員
- ・ ひたちなか市 環境審議会委員
- ・ 茨城県 霞ヶ浦環境科学センター評価委員会委員

岡田 誠

- ・ 一般社団法人日本地質学会 代表理事 会長
- ・ つくばサイエンスアカデミー 会員
- ・ 日本学術会議 IUGS 分科会 ICS 小委員会委員
- ・ 地球環境史学会 評議委員・副会長
- ・ 公益社団法人日本地球惑星科学連合 代議員
- ・ 日本第四紀学会 評議委員
- ・ 市原市地磁気逆転地層保存活用検討委員会 委員長
- ・ 国際第四紀学連合 年代層序委員会 アドバイザリーボードメンバー
- ・ 一般社団法人日本地質学会

小荒井 衛

- ・ 茨城県 茨城県環境影響評価審査会 委員長
- ・ 法務省司法試験予備試験委員
- ・ 国土交通省 土地履歴調査委員「水戸」地区
- ・ 日本学術振興会 特別研究員等審査会 専門委員
- ・ 市原市 市原市地磁気逆転地層保存活用検討委員会 委員
- ・ （一社）全国地質調査業協会連合会 応用地形判読土試験検定委員
- ・ 日本技術者教育認定機構（JABEE） 審査研修員
- ・ リモートセンシング技術センター、三菱総合研究所など 防災利用実証活動評価委員
- ・ 日本地図センター 優良地理空間情報成果等審査委員会委員
- ・ 筑波山地域ジオパーク推進協議会 教育学術部会委員
- ・ 地学団体研究会 会長
- ・ 東京地学協会 渉外委員
- ・ 日本地質学会 技術者教育委員
- ・ 防災学術連携体連携会員（日本第四紀学会）
- ・ 日本第四紀学会 評議員
- ・ 日本第四紀学会 渉外委員

- ・ (一社) 日本写真測量学会 評議員
- ・ (一社) 日本リモートセンシング学会 評議員
- ・ (一社) 日本リモートセンシング学会 防災委員会委員
- ・ 日本地図学会 防災委員会委員
- ・ 日本地図学会 評議員
- ・ 地理学会 災害対応委員
- ・ 日本沿岸域学会 会誌編集委員
- ・ 日本地球惑星科学連合 プログラム委員 (日本地図学会)
- ・ 日本地球惑星科学連合 環境・災害対応委員 (日本地質学会, 東京地学協会)

外岡 秀行

- ・ (国研)産業技術総合研究所 客員研究員
- ・ Hitachi アカデミックシステム研究会 (HAS 研) 会長
- ・ (一社)日本リモートセンシング学会 リモートセンシング事典編集委員長
- ・ (一社)日本リモートセンシング学会 RS 教科書編集委員長
- ・ 衛星地球観測コンソーシアム (CONSEO) 光学・SAR ワーキンググループ副主査
- ・ 今後の宇宙開発体制のあり方に関するタスクフォース 会合・リモートセンシング分科会 幹事
- ・ (国研)宇宙航空研究開発機構(JAXA) 小型 MWIR 高分解能観測ミッション検討委員会 委員
- ・ (一財)宇宙システム開発利用推進機構 サプライチェーン強靱化に資する技術開発・実証事業技術委員会 委員
- ・ (一財)宇宙システム開発利用推進機構 ISS 搭載型ハイパースペクトルセンサ等研究開発・データ利用技術委員会 委員
- ・ (国研)国立環境研究所 温室効果ガス・水循環観測技術衛星温室効果ガス観測ミッション有識者会議ワーキンググループ委員
- ・ 一般財団法人リモート・センシング技術センター 2022 年度 RESTEC 研究助成審査委員会 委員
- ・ (一社)日本リモートセンシング学会 DX 部会 会長
- ・ (一社)日本リモートセンシング学会 事務局情報管理担当

浅木 直美

- ・ 日本作物学会関東支部 支部長
- ・ 日本作物学会編集委員会 委員

内田 晋

- ・ 日本地域学会 理事
- ・ 日本地域学会 事務局次長
- ・ Asia-Pacific Journal of Regional Science 誌編集委員会 Managing Editor
- ・ 日本農業経済学会 理事
- ・ 日本環境共生学会 編集委員

- ・ 日本 LCA 学会 学術誌編集委員

小松崎 将一

- ・ 日本有機農業学会 理事
- ・ 日本農業教育学会 編集委員長
- ・ 日本農作業学会 編集委員
- ・ 土浦市都市産業部農林水産課土浦市農業委員会 委員候補者評価委員会委員
- ・ 茨城県農林水産部 日本型直接支払制度推進委員会
- ・ 日本農作業学会 評議員
- ・ 日本農業教育学会 評議員

坂上 伸生

- ・ 茨城大学生生活協同組合 理事
- ・ 阿見町国際交流協会 副会長
- ・ 日本土壌微生物学会「土と微生物」編集委員

長南 茂

- ・ 東京医科大学茨城医療センター 医薬品治験臨床試験審査委員会

長谷川 守文

- ・ 日本農芸化学会代議員
- ・ 日本農芸化学会関東支部参与
- ・ 日本農芸化学会 SNS ワーキンググループ委員

三村 信男

- ・ IPCC 第 6 次報告書 WGII レビューエディター
- ・ Mitigation and Adaptation Strategies for Global Change 編集委員
- ・ Sustainability Science 編集アドバイザー
- ・ JICA 緒方貞子平和開発研究所特別客員研究員
- ・ JICA コベネフィット型気候変動対策に係る調査・研究有識者会議座長
- ・ (一社) 海外環境協力センター (OECC) 会長
- ・ (公財) 地球環境戦略機関 (IGES) 評議員
- ・ 国立環境研究所参与
- ・ 東京大学未来ビジョン研究センター顧問
- ・ 笠間市気候変動対策専門委員会委員
- ・ 茨城県経営者協会環境委員会特別委員
- ・ 常陽藝文センター理事
- ・ 「エコーいばらき」環境保全基金運営委員長

- ・ 環境省中央環境審議会地球環境部会委員、気候変動影響評価小員会委員長
- ・ 環境省広域アクションプラン策定事業全国アドバイザー
- ・ 阿見町「あみの自然大好きシンポジウム～ゼロカーボンシティを目指して～」講演
- ・ 横浜市「気候変動×アート」講演
- ・ 国際ロータリークラブ第 2820 地区社会奉仕セミナー講演

石川 由紀

- ・ 東海村緑化審議会審議委員

9. 2 社会連携

加納 光樹

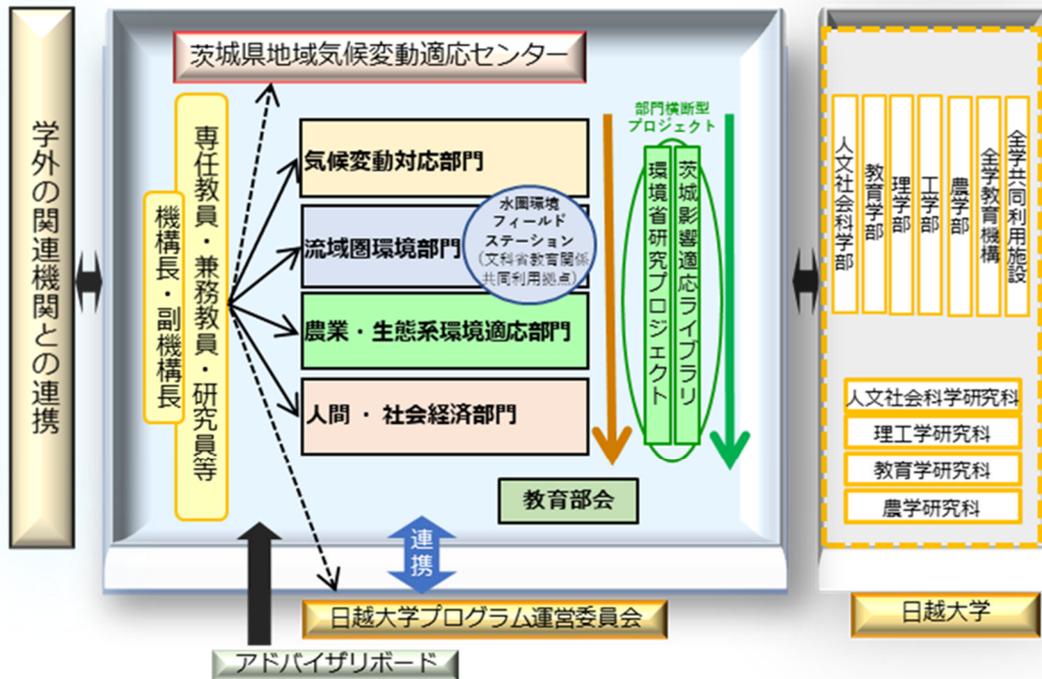
- ・ 茨城県水産試験場との共同研究「茨城県沖における底魚類の資源構造に関する研究」

田村 誠

- ・ 人間文化研究機構国文学研究資料館 茨城大学地球・地域環境共創機構 共同セミナー「歴史資料を活用した減災・気候変動適応に向けた文理融合研究の深化」総合討論モデレーター
- ・ S-18-3 勉強会「包摂的な脱炭素・エネルギー転換について考える：日本の事例から」「気候変動による氾濫・浸水災害の統合影響予測と適応策の経済評価」モデレーター
- ・ 気候変動への適応とその社会実装 共同コンビナー

(10) 組織、運営、人事、予算

10.1 機構の構成 (2022.4.1 現在)



10.2 教職員名簿

2022.11.15 現在

区分	運営委員	担当	氏名	所 属		部門
				部 署	職 名	
兼務	運営	機構長	戸嶋 浩明	農学部食生命科学科	教授	農業・生態環境適応部門
兼務	運営	副機構長 (教育構想・SDGs担当) 教育部会長兼務	蓮井 誠一郎	人文社会科学部現代社会学科	教授	人間・社会経済部門
専任	運営	副機構長 (研究担当)	藤田 昌史	地球・地域環境共創機構	教授	流域圏環境部門
専任	運営	流域圏環境部門長	中里 亮治	地球・地域環境共創機構	准教授	流域圏環境部門
専任	運営	水圏FSセンター長	加納 光樹	地球・地域環境共創機構	教授	流域圏環境部門
専任	運営	気候変動部門長	田村 誠	地球・地域環境共創機構	教授	気候変動対応部門
専任	運営		増永 英治	地球・地域環境共創機構	講師	流域圏環境部門
専任	運営		山口 直文	地球・地域環境共創機構	講師	流域圏環境部門
専任	運営		碓井 星二	地球・地域環境共創機構	助教	流域圏環境部門
専任	運営		小寺 昭彦	地球・地域環境共創機構	講師	気候変動対応部門
兼務		教育	伊藤 孝	教育学部(理科教育)	教授	気候変動対応部門
兼務	運営		郡司 晴元	教育学部(理科教育)	准教授	人間・社会経済部門
兼務			伊藤 哲司	人文社会科学部現代社会学科	教授	人間・社会経済部門
兼務			添田 仁	人文社会科学部人間文化学科	准教授	人間・社会経済部門
兼務	運営	人間・社会経済部門長	西野 由希子	人文社会科学部人間文化学科	教授	人間・社会経済部門
兼務			野田 真里	人文社会科学部現代社会学科	教授	人間・社会経済部門
兼務			原口 弥生	人文社会科学部現代社会学科	教授	人間・社会経済部門
兼務			岡田 誠	理工学研究科 地球環境科学領域	教授	流域圏環境部門
兼務	運営	日越ダイレクター	北 和之	理工学研究科 地球環境科学領域	教授	気候変動対応部門
兼務	運営		小荒井 衛	理工学研究科 地球環境科学領域	教授	気候変動対応部門
兼務			若月 泰孝	理工学研究科 地球環境科学領域	准教授	気候変動対応部門
兼務			柴田 保	理工学研究科 情報科学領域	助教	気候変動対応部門
兼務			武田 茂樹	理工学研究科 電気電子システム工学領域	教授	気候変動対応部門
兼務			外岡 秀行	理工学研究科 情報科学領域	教授	気候変動対応部門
兼務			藤芳 明生	理工学研究科 情報科学領域	教授	流域圏環境部門
兼務	運営	適応センター長	横木 裕宗	理工学研究科 都市システム工学領域	教授	気候変動対応部門
兼務			浅木 直美	農学部地域総合農学科	准教授	農業・生態環境適応部門
兼務			内田 晋	農学部地域総合農学科	准教授	人間・社会経済部門
兼務			岡山 毅	農学部地域総合農学科	教授	農業・生態環境適応部門
兼務			小松崎 将一	農学部地域総合農学科	教授	農業・生態環境適応部門
兼務			坂上 伸生	農学部食生命科学科	准教授	農業・生態環境適応部門
兼務			七夕小百合	農学部地域総合農学科	准教授	農業・生態環境適応部門
兼務			長南 茂	農学部食生命科学科	教授	農業・生態環境適応部門
兼務	運営	農業・生態環境適応部門長	西澤 智康	農学部食生命科学科	准教授	農業・生態環境適応部門
兼務			長谷川 守文	農学部食生命科学科	教授	農業・生態環境適応部門
兼務			野口 宏	情報戦略機構	准教授	流域圏環境部門
研究員		GLEC顧問	三村 信男	地球・地域環境共創機構	特命教授・顧問	
			安原 一哉	地球・地域環境共創機構	特命研究員・名誉教授	
			今村 航平	地球・地域環境共創機構	研究員	
			石川 由紀	地球・地域環境共創機構	特命研究員	
			堅田 元喜	地球・地域環境共創機構	特命研究員	
			李 勇昕	日本学術振興会	特別研究員	

10.3 外部資金

蓮井 誠一郎

- ・ 【研究種目】環境研究総合推進費 S-18, 【研究テーマ】統一的な気候変動影響予測のためのフレームワーク構築と基盤情報の整備, 蓮井誠一郎 (研究分担者), 2020/04/01-2026/03/31

藤田 昌史

- ・ 【研究種目】科学研究費助成事業 基盤研究(C), 【研究テーマ】自然環境要因の変動を考慮した汽水性二枚貝ヤマトシジミの環境ストレス評価手法の構築, 藤田昌史 (研究代表者), 2020/04-2023/03
- ・ 【研究種目】公益信託下水道振興基金, 【研究テーマ】流入下水中の有機物成分濃度の迅速推定に基づく省エネ運転管理支援システムの開発, 藤田昌史 (研究代表者), 2022/11-2023/10
- ・ 【研究種目】S-18, 【研究テーマ】気候変動影響予測・適応評価の総合的研究, 藤田昌史 (研究分担者), 2022/04-2025/03

中里 亮治

- ・ 【研究種目】公益財団法人河川財団 2022 年度河川基金助成事業, 【研究テーマ】帰還困難区域の山地溪流生態系における放射性セシウム移行メカニズムに関する研究, 中里亮治, 1,000 千円

加納 光樹

- ・ 【研究種目】科研費基盤 (B), 【研究テーマ】ジュゴンは沿岸浅海域の生物多様性や小型動物の生残にどのように寄与するか?, 加納光樹 (研究分担者), 250 千円
- ・ 【研究種目】科研費基盤 (C), 【研究テーマ】生物多様性・水産資源回復に寄与する大規模クリークの生物生息基盤改良技術の開発, 加納光樹 (研究代表者), 780 千円

田村 誠

- ・ 【研究種目】国文学研究資料館異分野融合共同研究, 【研究テーマ】歴史資料を活用した減災・気候変動適応に向けた文理融合研究の深化 (研究代表者)
- ・ 【研究種目】2020-2024 年度環境省環境研究総合推進費 S-18-3(1), 【研究テーマ】気候変動による氾濫・浸水災害の統合影響予測と適応策の経済評価, 横木裕宗 (研究代表者) 田村誠 (研究分担者)

増永 英治

- ・ 【研究種目】NEDO 新エネルギー等のシーズ発掘・事業化に向けた技術研究開発事業 社会課題解決 枠フェーズB (風力発電利用促進分野), 【研究テーマ】洋上風力発電事業の漁業協調共生に係る新モニタリングシステムと魚礁効果予測の開発, 増永英治 (研究分担者), 2022/11/01-2024/09/30
- ・ 【研究種目】科学研究費助成事業 学術変革領域研究(A), 【研究テーマ】河口から大陸棚における流動変動と物質の拡散過程, 増永英治 (研究分担者), 2022/06/16-2027/03/31
- ・ 【研究種目】科学研究費助成事業, 【研究テーマ】マルチプラットフォーム統合解析モデルを用いた陸域から海洋への物質輸送過程の研究, 増永英治 (研究代表者), 2022/04/01-2026/03/31
- ・ 令和4年度東京大学大気海洋研究所学際連携研究の審査結果, 【研究テーマ】乱流混合と酸素輸送プ

ロセスに関する渦相関技術の構築：浅水境界層への応用，増永英治（研究代表者），2022/04/01-2023/03/31

- ・ 【研究種目】科学研究費助成事業 基盤 A，【研究テーマ】広域海洋動態・気候変動解析のためのマルチスケール統合型沿岸環境解析システムの開発，増永英治（研究分担者），2018/04/01-2023/03/31

山口 直文

- ・ 放射能環境動態・影響評価ネットワーク共同研究拠点，【研究テーマ】非定常流下における堆積物輸送の時系列過程の解明，山口直文（研究代表者），2022/04/01-2023/03/31
- ・ 【研究種目】科学研究費助成事業 基盤研究 (C)，【研究テーマ】ウェーブリップルが地層に残される定量的条件の解明：浅海堆積物から分・秒を読み取る，山口直文（研究代表者），2021/04/01-2024/03/31

小寺 昭彦

- ・ 【研究種目】科学研究費助成事業 基盤研究 (C)，【研究テーマ】東南アジア地域における農作物の洪水-干ばつ被害と統合的被害緩和策，小寺昭彦（研究代表者），2017/04/01-2023/03/31
- ・ 【研究種目】国際科学技術共同研究推進事業 地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム，【研究テーマ】アラル海地域における水利用効率と塩害の制御に向けた気候にレジリエントな革新的技術開発，小寺昭彦（研究分担者），2021/10/1-2026/9/30

伊藤 哲司

- ・ 【研究種目】日本原子力発電共同研究，【研究テーマ】災害・地域レジリエンス向上のためのボトムアップアプローチ対話による環境共創とまちづくりのためのアクションリサーチ，伊藤哲司（研究代表者），2020/12/01-2023/03/31
- ・ 常総市からの委託事業，【研究テーマ】関係人口増加のための案内看板設置検討プロジェクト，伊藤哲司（研究代表者），2021/04/01-2023/03/31

添田 仁

- ・ 【研究種目】科学研究費助成事業 基盤研究 (C)，【研究テーマ】開港場建設における軍事動員と地域社会－幕府海軍の炭鉱開発を中心に－，添田仁（研究代表者），2022/04-2026/03
- ・ 【研究種目】科学研究費補助金 基盤研究(B)，【研究テーマ】研究者ネットワークによる巨大災害被災地での歴史文化環境再生の研究，添田仁（研究分担者），2019/04-2023/03
- ・ 【研究種目】科学研究費補助金 基盤研究(C) 一般，【研究テーマ】近世日本の鉱山開発を支えた豪農商と〈鉱山知〉の歴史的分析，添田仁（研究代表者）

野田 真里

- ・ 【研究種目】科学研究費補助金 挑戦的研究(萌芽)，【研究テーマ】経済発展における「性的マイノリティ」の役割－東南アジア二大宗教の比較研究，2020/07/30-2023/03/31
- ・ 【研究種目】科学研究費補助金 基盤研究 (C)，【研究テーマ】カンボジアにおける SDGs 達成にむ

けた教員改革-産業人材育成と学ぶ権利の保障, 2020/04/01-2023/03/31

- ・ 【研究種目】科学研究費補助金 国際共同研究加速基金（国際共同研究（B）），【研究テーマ】「一路」（海のシルクロード）インフラ開発における日中間の競争と協調の可能性, 2019/10-2025/03/31

原口 弥生

- ・ 【研究種目】科学研究費助成事業 基盤研究（B）, 【研究テーマ】環境リスクの認知と問題構築における環境正義・公正性の社会的な国際比較研究, 原口弥生（研究分担者）, 2019/04/01-2023/03/31

小荒井 衛

- ・ 国文学研究資料館 共同研究, 【研究テーマ】歴史資料を活用した減災・気候変動適応に向けた文理融合研究の深化, 小荒井衛（研究代表者）, 2020/04/01-2024/03/31
- ・ 【研究種目】科学研究費助成事業 基盤研究(B), 【研究テーマ】航空レーザデータを活用した森林の根系発達の推定と斜面崩壊予測に関する研究, 2019/04/01-2023/03/31

外岡 秀行

- ・ 【研究種目】科学研究費助成事業 基盤研究（C）, 【研究テーマ】夜間の災害監視強化を目指す衛星熱赤外面像の疑似可視カラー変換技術の開発, 外岡秀行（研究代表者）, 2021/04/01-2024/03/31
- ・ (一財)宇宙システム開発利用推進機構 受託研究, 【研究テーマ】ASTER の TIR データの品質管理に係る研究, 外岡秀行（研究代表者）, 2021/01/01-2023/02/28
- ・ (国研)宇宙航空研究開発機構(JAXA) 受託研究, 【研究テーマ】2022 年度 地球観測用小型赤外カメラ(CIRC)に関する校正検証, 外岡秀行（研究代表者）, 2022/10/14-2023/03/24
- ・ 環境研究総合推進費 S-18, 【研究テーマ】気候変動による氾濫・浸水災害の統合影響予測と適応策の経済評価, 外岡秀行（研究分担者）, 2020/04/01-2025/03/31

横木 裕宗

- ・ 【研究種目】環境研究総合推進費 戦略的研究開発領域（I）, 【研究テーマ】気候変動による氾濫・浸水災害の統合影響予測と適応策の経済評価, 横木裕宗（研究代表者）, 2020/04-2025/03
- ・ 【研究種目】科学研究費助成事業 基盤研究(C), 【研究テーマ】環礁州島海岸での海岸植生による砂浜安定化の研究および持続可能な海岸保全策の提案, 横木裕宗（研究代表者）, 2020/04-2023/03

小松崎 将一

- ・ いばらき自然エネルギーネットワーク設立 10 周年記念事業 奨学寄付対象研究, 【研究テーマ】耕さず、草を生やしてソーラーシェアリングカーボンネガティブを実現する新しい不耕起有機農業の推進, 小松崎将一（研究代表者）, 2021/10/01-2022/09/30

坂上 伸生

- ・ 【研究種目】イノベーション創出強化研究推進事業 基礎研究ステージ 基礎研究型, 【研究テーマ】エンドファイト-土壤微生物共生系の機能を活用した気候変動に適応する持続的なテンサイ栽培技

術の確立, 坂上伸生 (研究分担者), 2022/04-2024/03

- ・ 受託研究, 【研究テーマ】有機圃場土壌の総合的な評価手法の開発に関する調査研究, 坂上伸生 (研究分担者), 2021/04-2024/03
- ・ 【研究種目】科学研究費補助金 基盤研究 (B) 一般, 【研究テーマ】エンドファイトと土着微生物との共生系を利用すると安定して土壌病害を抑制できる, 坂上伸生 (研究分担者), 2021/04-2024/03
- ・ 共同研究, 【研究テーマ】高速道路緑地における草地管理手法の研究開発, 坂上伸生 (研究分担者), 2019/04-2024/03

長南 茂

- ・ 【研究種目】科学研究費補助金 基盤研究 (B) 一般, 【研究テーマ】微生物を利用した CoA コファクターエンジニアリングの物質生産への応用, 長南茂, 1,600 千円

長谷川 守文

- ・ 奨学寄附金 生物制御化学に関する研究助成金, 長谷川守文, 500 千円

三村 信男

- ・ 【研究種目】環境研究総合推進費 戦略的研究開発課題 S-18-1, 【研究テーマ】気候変動影響予測・適応評価フレームワークの開発, 三村信男 (研究代表者), 2020/04-2024/03

今村 航平

- ・ 【研究種目】2020-2024 年度 環境省環境研究総合推進費 S-18-3(1), 【研究テーマ】気候変動による氾濫・浸水災害の統合影響予測と適応策の経済評価, 横木裕宗 (研究代表者) 今村航平 (研究分担者)

石川 由紀

- ・ 【研究種目】科研費基盤研究 基盤研究 (C) 一般, 【研究テーマ】湖沼の内部負荷に着目した, 堆積有機物の質的動態の解明, 長濱祐美 (研究代表者) 石川由紀 (研究分担者)
- ・ プロ・ナトゥーラファンド助成, 【研究テーマ】藻類はベトナム北部のマングローブ生態系を救うか, 石川由紀 (研究代表者)

堅田 元喜

- ・ 【研究種目】科研費基盤研究 基盤研究 (A) 一般, 【研究テーマ】統合粒子モデル開発による水物質を介した気象変化と環境汚染の相乗効果の解明, 堅田元喜 (研究分担者)
- ・ 東日本高速道路株式会社 共同研究, 【研究テーマ】高速道路緑地における草地管理手法の研究開発, 堅田元喜 (研究分担者)

李 勇昕

- ・ 【研究種目】日本学術振興会 科学研究費助成事業 特別研究員奨励費, 【研究テーマ】新型コロナウイルス時代における住民主体の震災復興とは何かー日台の比較を通じてー, 4,160 千円 (総額), 2022/04-2025/03

地球・地域環境共創機構 (GLEC) 事業報告会

令和2年に設立したGLECが3年目を迎えました。
GLECのこれまでの成果のレビューと今後の方向性について、教職員を対象に事業報告会を開催します。

プログラム

1. 機構長あいさつ
2. 部門報告
 - ①気候変動対応部門
 - ②流域圏環境部門
 - ③農業・生態系環境適応部門
 - ④人間・社会経済部門
3. 総合討論

日時 令和4年9月26日(月)
15:00-16:30

参加方法： オンライン（Teams）にて開催します。
こちらからご参加ください。（事前の参加登録は不要です。）

対 象： 本学教職員

問い合わせ先 GLEC支援室 関・木村 029-228-8787
glec-staff@ml.ibaraki.ac.jp



ユージン・スミスが撮った 日立 HITACHI

茨城大学の文学研究者たちが読み解く フォトエッセイの価値

主催 茨城大学地球・地域環境共創機構 (GLEC)

写真：松本美枝子



米国の写真家ユージン・スミス (1918-1978)。水俣病の深刻な状況を世界に伝えたことでも知られるスミスは、それに先立つ1960年代に日立製作所からの依頼を受けて日立を訪れ、「Japan... a chapter of image」というフォトエッセイを制作しています。同社の工場だけでなく、近代化が押し寄せる港町・日立の人びとの暮らしも独自の目線で捉えたモノクロームの写真と、英文のエッセイ。スミスは変わりゆく日立の姿に何をしようとしていたのか。またこの貴重な遺産を私たちはどう引き継ぐのか。茨城大学の文学研究者たちが読み解きます。

日時 11月19日(土) 14:00~15:30 (13:45 開場)

会場 日立オリジンパーク 小平記念館 (アネックス) Origin Hall
(日立市大みか町 6-19)

定員 50名 (オンライン配信はありません)

※日立オリジンパーク見学者用駐車場はご利用いただけません。
現地にて別の駐車場をスタッフがご案内いたします。

ユージン・スミスと日立—ユージン・スミスの日立製作所関連写真について—

大森 潤也 (日立市郷土博物館 学芸員)

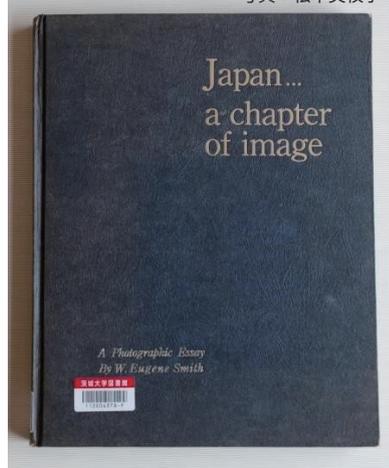
茨城大学の文学研究者たちが読み解くフォトエッセイの価値

- ①アメリカ文化・文学研究者が読み解く「ユージン・スミス写真集」
—ピッツバーグと水俣を結ぶ日立：土地・人・フォトエッセイ—
君塚 淳一 (茨城大学教育学部教授/アメリカ文学)
- ②地域にとっての「ユージン・スミス写真集」
西野 由希子 (茨城大学人文社会科学部教授/中国文学)

茨城大学と我が町・日立市—コメントとして—

鎌田 賢 (茨城大学工学部教授・副学部長)

写真：松本美枝子



▲フォトエッセイの実物を展示
お手に取ってご覧いただけます

事前のお申込みを
お願いいたします

- ①WEB フォームからのお申込み ▶ QRコードを読み込み
- ②お電話・メールでのお申込み・お問合せ
▶ 茨城大学地球・地域環境共創機構 (GLEC)
TEL: 029-228-8787
E-mail: r4_esmith@m.ibaraki.ac.jp



市町村向け気候変動適応に係る研修会

- ◆ 日 時 11月24日(木)13:30～15:30
- ◆ 場 所 茨城県開発公社 4F(水戸市笠原町 978-25)
- ◆ 開催方法 対面+オンライン(Zoom)のハイブリッド
- ◆ 参加登録 フォームからの事前登録制
- ◆ 参加費 無料
- ◆ プログラム

【司会】小寺 昭彦(茨城大学地球・地域環境共創機構 講師)

時刻	内容
13:30	開会挨拶: 佐藤 隆史(茨城県県民生活環境部環境政策 課長)
13:35	基調講演「気候変動と適応策」 真砂 佳史(国立環境研究所気候変動適応センター 気候変動適応戦略研究室 室長)
14:35	地球温暖化による豪雨影響研究の一例と県内市町村の災害対応の状況 若月 泰孝(茨城大学大学院理工学研究科(理学野) 准教授)
14:50	iLCCACによる地域の適応 田村 誠(茨城大学地球・地域環境共創機構 教授)
15:05	茨城県における取組 川上 菜央(茨城県県民生活環境部環境政策課 主事)
15:15	総合討論(参加者の皆様と発表者で質疑応答・意見交換を行います)
15:30	閉会挨拶 横木 裕宗(茨城県地域気候変動適応センター長/茨城大学大学院理工学研究科(工学野) 教授)

豪雨は様々な災害を引き起こします。茨城県でも、近年、平成27年9月関東・東北豪雨や令和元年東日本台風などの水害を経験しました。地球温暖化によって、将来的に豪雨災害のリスクが高まる中、豪雨の諸問題と減災に資する対策のために、地域レベルで情報交換を行い、問題の重要性を共有し、協力して対策する必要性が求められています。これまで、4回にわたって、豪雨災害に関する情報交換会（茨城）という名前でワークショップを開催してまいりました。今回、茨城豪雨災害対策ワークショップ（第5回 豪雨災害に関する情報交換会（茨城））を開催することにいたしました。主なテーマは、災害時の情報伝達と防災対策の地域連携についてです。

自治体、研究者、地域で豪雨災害に関わっている一般の方、豪雨災害対策に強い関心のある学生等のご参加とご議論を期待いたします。特に、防災行政に関わる茨城県内の市町村の方からの多くご参加いただければと思います。

2023年

日時

1月16日（月）

13:00～15:00

会場

Zoomオンライン開催

プログラム

- 1 趣旨説明**
若月 泰孝（茨城大学理工学研究科（理学野）・茨城県地域気候変動適応センター）
- 2 講演**
NHK水戸放送局の防災・減災報道～地域の命と暮らしを守るために～
中川 裕（NHK水戸放送局 ニュースデスク）
- 3 議論**
1. 災害時の情報伝達について
2. 防災対策における地域連携について
話題提供：水戸地方气象台、茨城大学、茨城県防災危機管理課、境町他
- 4 まとめ**

ご参加に際し、国・県・市町村等の行政機関の皆様や、研究者の皆様、地域防災に積極的に取り組んでおられる一般の方から、災害時の住民への情報伝達、防災対策の連携などに関して、ご意見や情報提供などをお願いいたします。パワーポイント資料などをご提示いただくことも歓迎いたします。市町村連携に関しては、地域防災組織などに対する防災イベントなどの情報共有の必要性などについて検討できればと考えております。

主催：茨城大学、茨城県地域気候変動適応センター
共催：水戸地方气象台
協力：日本原子力発電株式会社

お申し込み

参加申し込み・問い合わせは、以下のリンクからお願いします。（1月14日までに申し込みいただけると幸いです）

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_zEO0ZEmDTASzy0A5biKN2Q

☆取材の場合も事前にご連絡ください。

担当：茨城県地域気候変動適応センター ilccac@ml.ibaraki.ac.jp

茨城豪雨災害対策 ワークショップ

第5回 豪雨災害に関する情報交換会（茨城）



二〇二三年二月二二日（水） 十四時～十六時

茨城大学水戸キャンパスライブラリーホール

二〇一七年に人間文化研究機構国文学研究資料館と茨城大学地球変動適応科学研究機関

(ICAS)は、学術交流協定を締結しました。

茨城大学ICASは地球・地域環境共創機構(GLEC)と二〇二〇年度に改組しましたが、国文学研究資料館とは引き続き「歴史資料を活用した減災・気候変動適応に向けた文理融合研究の深化」というテーマで四年間の研究プロジェクトが進行中です。

本セミナーでは、那珂川の過去、現在、未来、特に水害とそ

の対応について議論していきます。

一 挨拶

二 講演

『近世那珂川の水害史―水害記録の分析から―』
藤井 達也 (水戸市立博物館学芸員)

『那珂川水系における流域治水』
堀内 輝亮 (国土交通省 関東地方整備局常陸河川国道事務所副所長)

三 研究プロジェクト紹介

西村 慎太郎 (人間文化研究機構国文学研究資料館研究部 教授)

小荒井 衛 (茨城大学大学院理工学研究科(理学野) 教授)

添田 仁 (茨城大学大学院人文社会科学部 准教授)

野澤 恵 (茨城大学大学院理工学研究科(理学野) 教授)

小西 次郎 (茨城大学大学院理工学研究科 博士後期課程)

四 総合討論・討論

モデレータ

田村 誠

(茨城大学地球・地域環境創機構 教授)

参加無料 事前申し込み

オンライン (Zoom) 視聴可能

参加ご希望の方は[こちら](#)もしくは右下のQRコードよりお申込みください。



歴史資料を活用した
減災・気候変動適応に向けた新たな研究分野の創成

2022年度

茨城県地域気候変動適応センター

シンポジウム

気候変動適応法の施行を受けて、2019年4月より「茨城県地域気候変動適応センター」が設置されました。本シンポジウムでは、農業分野を中心に茨城県における気候変動影響と適応策に関する最新の知見や本センターの活動を共有し、地域での適応を推進して参ります。多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

令和5年

日時

2月27日(月) 13:00~15:00

場所

茨城大学水戸キャンパス
ライブラリーホール
〔開催方法：対面＋オンライン〕

プログラム

〔司会〕小寺 昭彦 (茨城大学地球・地域環境共創機構 講師)

開会挨拶

横木 裕宗 (茨城県地域気候変動適応センター長/茨城大学大学院理工学研究科(工学野)教授)

挨拶

佐藤 隆史 (茨城県県民生活環境部環境政策課課長)

茨城県地球温暖化対策実行計画について

川上 菜央 (茨城県県民生活環境部環境政策課 主事)

茨城県の気候変動影響と適応策1「水稻の気候変動影響と適応策」

滝本 貴弘 (国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境研究部門 主任研究員)

茨城県の気候変動影響と適応策2「小麦の気候変動影響と適応策」

中園 江 (国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 中日本農業研究センター 転換畑研究領域 栽培改善グループ 上級研究員)

iLCCAC活動報告1「エンドファイトの活用による気候変動に適応する持続的な生産技術」

成澤 才彦 (茨城大学農学部 教授)

iLCCAC活動報告2「茨城県における気候変動研究・教育の実践」

田村 誠 (茨城大学地球・地域環境共創機構 教授)

質疑応答

閉会挨拶

戸嶋 浩明 (茨城大学農学部 教授/地球・地域環境共創機構長)

閉会

お申し込み

事前に以下のリンク又は右記QRコードよりお願いいたします。

<https://forms.office.com/r/YEdcd56n2u>



フォームから
事前登録制

参加費
無料

茨城大学地球・地域環境共創機構 (GLEC) 主催 / 茨城大学SDGs推進プロジェクトチーム共催

第14回 学生SDGsフォーラム

学生からのポスター発表募集!

学生サステナビリティフォーラムから改称

THEME テーマ

持続可能性 (サステナビリティ) の諸課題の解決に向けた取り組みの一環として、学部生・大学院生が分野の枠を超えて行う研究交流「学生サステナビリティフォーラム」を今年度から「学生SDGsフォーラム」と改称して開催します。微生物学の研究者であるゲイリー・キング氏を米国よりお迎えし、「気候変動と微生物」をテーマとした講演会も実施します。

DATE 日時

令和5(2023)年 **3月2日(木)**

第1部 11:00 ~ 12:00 (10:30 受付開始)

第2部 14:00 ~ 16:30 (13:30 受付開始)

LOCATION 会場

茨城大学 水戸キャンパス

図書館ライブラリーホール / 共同学習エリア

※日立・阿見キャンパス所属の方には、キャンパス間送迎バスを用意しています。

SCHEDULE スケジュール

10:30 第1部：受付開始

11:00 講演会 @図書館 3F ライブラリーホール

- オンライン配信：あり
- テーマ：気候変動と微生物(仮)
- ※使用言語は英語ですが日本語による解説もあります。
- 講師：ゲイリー・キング氏
米ルイジアナ州立大学教授(12月退職予定)

12:00 お昼休み(各自昼食) + ポスター準備

13:30 第2部：受付開始

14:00 ポスターセッション + 1minプレゼン

@図書館 1F 共同学習エリア

- オンライン配信：なし
- ※1min は日本語の部と英語の部があります。

15:30 フリーディスカッション+投票

16:00 表彰式

16:30 解散



ゲイリー・キング氏
Gary M. King

ジョージア大学において1978年にPh.D (微生物学) を取得。ミシガン州立大学助手などを経て、2022年12月現在、ルイジアナ州立大学教授 (同月退職予定)。専門は微生物学で、気候変動にも影響を及ぼす大気中の微量ガス (メタン、水素、一酸化炭素など) を代謝する細菌の生態・生理学の研究に取り組んでいる。

ポスター・プレゼン要項

① ポスター要項

過去のポスターの例など詳しい情報はこちら



- ・ 使用言語は、日本語または英語とします。
- ・ 原則、A1サイズ 大(縦 85 cm × 横 60 cm)で PPTファイルを作成し、下記の締切日までに電子メールにて事務局宛に送付ください。ポスターの印刷は事務局で行い、当日会場でお渡ししますので、指定された番号位置に掲示ください。
- ・ A4サイズで発表する場合は、発表者自身で印刷して、当日持参ください。
- ・ 新たに発表資料を作ることが難しい場合は、他の学会で使用したポスターやゼミ発表等で使用した資料でも構いません。ただし、専門的な部分には「脚注」を付けるなどの工夫をお願いします。

② 1分間プレゼン要項

- ・ 日本語の部と英語の部があります。
- ・ ポスターの内容を1分間で紹介するための短い発表資料を PPTファイルで作成し、下記の締め切りまでに事務局に送付ください。

③ ポスター発表・参加登録締切・申込方法

- ・ ポスター発表希望者は、WEBフォームからお申し込みください。
- ・ ポスター発表をしない参加のみも歓迎します。こちらからお申し込みください。



WEBフォーム

<https://forms.office.com/r/EaHC9VkfG5>

登録締切

令和4(2022)年12月23日(金) ※空席がある場合、令和5年2月22日まで追加登録を受け付けます。

発表資料の送付締切

令和5(2023)年 2月22日(水)

発表資料の送付先

s-sdgs@m.ibaraki.ac.jp 宛に提出

ポスター賞

フォーラムでは、学生・教員を含めた参加者全員で投票を行い、ポスター賞などを選出します。受賞者には、賞状と粗品を贈呈いたします。

送迎バス

キャンパス間を往復する送迎バスが利用できます。

	
日立 ↔ 水戸	阿見 ↔ 水戸
行き 9:00 出発 帰り 16:30 出発	行き 9:00 出発 帰り 16:30 出発

詳細が決まり次第、バス利用の申し込みのあった方へご連絡します。

参加のみも歓迎！/
お申し込み・お問い合わせ

地球・地域環境共創機構 (GLEC) 担当: 関・大内

TEL 029-228-8787 E-MAIL s-sdgs@m.ibaraki.ac.jp

●ポスター発表登録・参加登録はこちらのフォームから <https://forms.office.com/r/EaHC9VkfG5>



公開シンポジウム ～学生・研究者・市民の発表会&交流の場～

霞ヶ浦流域研究2023

2023年

3/5(日)

10:00～15:30
(会議室会場9:30)

参加費無料, 参加登録3/3(金)まで
参加登録はホームページから
(<http://www.cwes.ibaraki.ac.jp/>)

▼ 午前の部 10:00～11:40

- 10:00 開会 中里亮治(茨城大)
- 10:05 霞ヶ浦における多地点流況モニタリングデータの解析 吉田壮汰(茨城大)
- 10:20 地球温暖化による成層の発達及ぼす霞ヶ浦への影響の評価 松本大樹(茨城大)
- 10:35 汽水性二枚貝ヤマトシジミの開閉運動と成長力に対するマイクロプラスチックの影響 三浦七海(茨城大)
- 10:50 高濃度二酸化炭素を用いた汽水性二枚貝ヤマトシジミの石灰化の促進 早川圭亮(茨城大)
- 11:05 帰還困難区域の山地溪流環境における放射性セシウム濃度の推移について 中里亮治(茨城大)
- 11:20 帰還困難区域に生息する溪流魚の放射性セシウム移行メカニズムについて 近藤陸人(茨城大)
- 11:35 福島第一原子力発電所事故に由来する放射性ストロンチウムの小集水域における挙動 荻部基一(近畿大)

ポスターセッション 12:10～12:50 (コアタイム12:20～12:50)

1. 北浦のヨシ帯の経年的な縮小が魚類群集に及ぼす影響 曲子昇(茨城大)
2. 霞ヶ浦流入河川の桜川における国外外来種ダントウボウの食性 大埜登輝(茨城大)
3. 帰還困難区域の山地溪流における藻類の放射性セシウム濃度の季節変化 山本昂成(茨城大)
4. 東京湾内湾臨海部の行徳鳥獣保護区(千葉県市川市)内で確認された水生甲虫目および半翅目 内田大貴(環境指標生物)
5. 東京都立葛西臨海公園鳥類園における水生甲虫目・半翅目およびその特徴 高野季樹(筑波大)
6. 北浦流入河川の雁通川における流下仔魚の季節的出現 小原 迪(茨城大)
7. 東京湾奥における小型魚をめぐる大型肉食魚と魚食性鳥類の相互作用 山川 薫(東邦大)



▼ 午後の部 13:00～15:30

- 13:00 巨大区画水田での乾田直播実証試験 横井沙衣子(茨城大)
- 13:15 霞ヶ浦におけるワカサギ漁獲量の推移とプランクトン動態 石川(石渡)由紀(茨城大)
- 13:30 コウライギギとダントウボウの2022年代の生息状況 萩原富司(土浦の自然を守る会)
- 13:45 霞ヶ浦流入河川「桜川」における国内外来種スゴモロコの生活史特性 渡邊美如々(茨城大)
- 14:00 休憩
- 14:15 潤沼流入河川での絶滅危惧種ウツセミカジカの稚魚の食性と生息環境 柏谷翔大(茨城大)
- 14:30 北浦流域の農業水路における魚類の出現パターンと生息環境特性 浜野 隼(茨城大)
- 14:45 霞ヶ浦のヨシ帯と砂浜における魚類群集構造の比較 浅野泰輝(茨城大)
- 15:00 鹿島灘沿岸砂底域における底生魚類群集の餌利用パターンと季節変動 水木裕翼(茨城大)
- 15:15 閉会 加納光樹(茨城大)

*プログラムには当日の演者のみ記してあります。



主催: 茨城大学地球地域環境共創機構水圏環境フィールドステーション (<http://www.cwes.ibaraki.ac.jp/>)
霞ヶ浦流域フィールドコンソーシアム

問い合わせ先: TEL: 0299-66-6886, E-mail: kasumi.hirayama.rn74@vc.ibaraki.ac.jp 担当: 平山

* 当ステーションは、文部科学省により認定された全国唯一の湖沼の教育関係共同利用拠点です。



S-18 中間評価結果 (独立行政法人環境再生保全機構 研究課題データベースより)

【課題番号】研究課題名	【S-18】気候変動影響予測・適応評価の総合的研究		
研究代表機関	茨城大学		
研究代表者	三村 信男	研究期間	2020(R2)年04月 - 2025(R7)年03月 実施中
研究の要旨	▶ 研究概要 [380KB] .		
成果報告	▶ 中間成果報告プレゼン資料 [6MB] .		
中間評価	中間評価個票 [50KB] . 評価ランク： S		
S-18はS-18-1、S-18-2、S-18-3、S-18-4、S-18-5の5つのテーマから構成されています。			

【課題番号】研究課題名	【S-18-1】総合的な気候変動影響予測・適応評価フレームワークの開発		
研究代表機関	茨城大学		
研究代表者	三村 信男	研究期間	2020(R2)年04月 - 2025(R7)年03月 実施中
成果報告	▶ 中間成果報告プレゼン資料 [3MB] .		
中間評価	中間評価個票 [54KB] . 評価ランク： S		
S-18はS-18-1、S-18-2、S-18-3、S-18-4、S-18-5の5つのテーマから構成されています。			

【課題番号】研究課題名	【S-18-2】農林水産業分野を対象とした気候変動影響予測と適応策の評価		
研究代表機関	(国研)農業・食品産業技術総合研究機構		
研究代表者	白戸 康人	研究期間	2020(R2)年04月 - 2025(R7)年03月 実施中
成果報告	▶ 中間成果報告プレゼン資料 [3MB] .		
中間評価	中間評価個票 [52KB] . 評価ランク： A		
S-18はS-18-1、S-18-2、S-18-3、S-18-4、S-18-5の5つのテーマから構成されています。			

【課題番号】研究課題名	【S-18-3】自然災害・水資源分野を対象とした気候変動影響予測と適応策の評価		
研究代表機関	茨城大学		
研究代表者	横木 裕宗	研究期間	2020(R2)年04月 - 2025(R7)年03月 実施中
成果報告	▶ 中間成果報告プレゼン資料 [6MB] .		
中間評価	中間評価個票 [57KB] . 評価ランク： A		
S-18はS-18-1、S-18-2、S-18-3、S-18-4、S-18-5の5つのテーマから構成されています。			

【課題番号】 研究課題名	【S-18-4】 国民の生活の質（QoL）とその基盤となるインフラ・地域産業への気候変動影響予測と適応策の検討と評価		
研究代表機関	東京大学		
研究代表者	栗栖 聖	研究期間	2020(R2)年04月 - 2025(R7)年03月 実施中
成果報告	▶ 中間成果報告プレゼン資料 [10MB] 		
中間評価	中間評価個票 [50KB]  評価ランク： A		
S-18はS-18-1、S-18-2、S-18-3、S-18-4、S-18-5の5つのテーマから構成されています。			

【課題番号】 研究課題名	【S-18-5】 気候変動影響及び適応策に関する経済評価手法の開発		
研究代表機関	東北大学		
研究代表者	日引 聡	研究期間	2020(R2)年04月 - 2025(R7)年03月 実施中
成果報告	▶ 中間成果報告プレゼン資料 [4MB] 		
中間評価	中間評価個票 [49KB]  評価ランク： A		
S-18はS-18-1、S-18-2、S-18-3、S-18-4、S-18-5の5つのテーマから構成されています。			



茨城大学 地球・地域環境共創機構

〒310-8512

茨城県水戸市文京 2-1-1

TEL : 029-228-8787

E-Mail : glec-office@ml.ibaraki.ac.jp

URL : <https://www.glec.ibaraki.ac.jp>